お茶の水女子大学
SDGs 推進研究所

2025 年度　事業報告書

Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

【資料】

① 国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則

② 国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 戦略会議規則

③ 各種イベント・案内ポスター

④ 2025 年度 SDGs 認知度調査 結果のまとめ

○国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則

令和４年３月２９日
制定

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学サスティナブル社会実装機構規則第４条第２項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所（以下「研究所」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条　研究所は、サスティナブル社会実装機構に附属する研究所として、持続可能な開発目標（以下「SDGs」という。）に関する総合的、国際的な研究及び教育並びに学内外において SDGs 活動実践を行い、国際研究拠点を構築するとともに、SDGs の実現に貢献することを目的とする。

（研究及び業務）

第３条　研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

(1)　SDGs に関する基礎及び応用研究

(2)　SDGs に関する教育及び啓発に関する業務

(3)　SDGs 実践活動に関する国内及び国際連携に関する業務

(4)　その他前条の目的を達成するために必要な業務

（組織）

第４条　研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

(1)　研究所長

(2)　研究員

(3)　その他学長が必要と認めた職員

２　研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

(1)　副研究所長

(2)　教員

(3)　プロジェクト管理者

(4)　特任職員

(5)　客員教員

(6)　客員研究員

(7)　研究協力員

（研究所長）

第５条　研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

２　研究所長は、研究所の業務を掌理する。

３　研究所長の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

４　研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副研究所長）

第６条　副研究所長は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

２　副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

３　副研究所長の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

４　副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

（プロジェクト管理者）

第７条　プロジェクト管理者は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

２　プロジェクト管理者は、研究所長の指示のもと、研究所の推進するプロジェクトを統括する。

３　プロジェクト管理者の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

４　プロジェクト管理者が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

（研究員）

第８条　研究員は、第３条に掲げる研究及び業務に従事する。

２　研究員は、本学専任の教員のうちから、学長が任命する。

３　研究員の任期は２年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

（客員研究員）

第９条　客員研究員は、第３条に掲げる研究及び業務に参画する。

２　客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

３　客員研究員の任期は１年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

（研究協力員）

第 10 条　研究協力員は、第３条に掲げる研究及び業務に協力する。

２　研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

３　研究協力員の任期は１年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

（運営会議）

第 11 条　研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、SDGs 推進研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

２　運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1)　研究所長

(2)　副研究所長
(3)　第４条第１項第２号に掲げる教員
(4)　第４条第１項第３号に掲げる研究員
(5)　その他所長が必要と認めた者
３　運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。
４　運営会議の構成員は、第２条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。
５　研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
６　本条に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第 12 条　研究所の事務は、研究・産学連携課が行う。
（雑則）
第 13 条　この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。
附　則
この規則は、令和４年４月１日から施行する。

○国立大学法人お茶の水女子大学SDGs戦略会議規則

令和5年7月19日
制定

（設置）

第1条　国立大学法人お茶の水女子大学（以下「本学」という。）に、持続可能な開発目標（以下「SDGs」という。）に関する活動の全学的な推進を目的として、国立大学法人お茶の水女子大学SDGs戦略会議（以下「会議」という。）を置く。

（審議事項）

第2条　会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　SDGs達成に向けた本学の基本方針の策定及び統括に関する事項

(2)　SDGs達成に係る本学の推進状況の把握に関する事項

(3)　その他会議が定める事項

（組織）

第3条　会議は、次に掲げる構成員をもって組織する。

(1)　学長

(2)　副学長（第4号に該当する者を除く。）

(3)　副学長（事務総括）

(4)　サスティナブル社会実装機構長

(5)　その他学長が必要と認めた者

（議長）

第4条　会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2　議長は、会議を主宰する。

3　議長にやむを得ない事故があるときは、議長が指名した者がその職務を代理する。

（会議の開催）

第5条　会議は、議長が必要と認めたときに開催する。

（会議の招集）

第6条　構成員の3分の1以上の要求があるときは、議長は、会議を招集する。

（会議の成立等）

第7条　会議の成立には、構成員の3分の2以上の出席を必要とする。

2　会議の議事は他の特別の規定がない場合は、出席者の過半数によりこれを決する。

（構成員以外の者の出席）

第8条　議長が必要と認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（事務）

第9条　会議の事務は、研究・産学連携課が行う。

（雑則）

第 10 条　この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、会議が別に定める。

附　　則

この規則は、令和 5 年 7 月 19 日から施行する。

Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学SDGs推進研究所 令和7年度

SDGs研究助成成果報告会

令和6年度に実施したSDGs研究助成の成果報告会を開催します。
本学学生・教職員の皆様、ぜひご参加ください！

第１回　6月11日(水) 13:20～14:10

①13:25～13:45
新規ビタミンD誘導体の殺鼠剤への応用：陸上の生態系を守るため

棚谷 綾（基幹研究院 自然科学系 教授）

影近 弘之 (東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所 教授)
長岡　慧 (大丸合成薬品株式会社 代表取締役社長)

②13:45～14:05
フッ化物イオン二次電池における セリウムフッ化物系固体電解質の開発

近松 彰（基幹研究院 自然科学系 准教授）

開催場所：共通講義棟1号館102室

お申込みは左QRコードより★当日申込歓迎★

第２回は6/18(水)13:20～14:50 (共1-102)です！

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

お問い合わせ：SDGs推進研究所事務局
Email： sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学SDGs推進研究所 令和7年度

SDGs研究助成 成果報告会

令和6年度に実施したSDGs研究助成の成果報告会を開催します。
本学学生・教職員の皆様、ぜひご参加ください！

第２回　6月18日(水) 13:20～14:50

①13:25-13:45
緑藻マリモの保全研究と附属中学校生徒の研究意欲向上に重要な実習内容
嶌田 智（基幹研究院 自然科学系 教授）
若菜 勇 (釧路市役所 都市経営課 世界自然遺産推進室 室長)
相川 京子 (前 附属中学校 校長)
植竹 紀子 (サイエンス＆エデュケーション研究所 特任講師)

②13:45-14:05
知的障碍者を対象としたダンスプログラム (IDダンス) の開発
水村 真由美（基幹研究院 人文科学系 教授）
高橋 将 (大東文化大学健康スポーツ科学部 講師)
濱名 智男 (日本文化大學法学部 教授)
杉山 りん (お茶の水女子大学大学院博士後期課程院生)

③14:05-14:25
基礎研究に基づく強相関電子系の未解明領域の探求とその革新的応用
古川 はづき（基幹研究院 自然科学系 教授）
E.Forgan(英国バーミンガム大学 名誉教授) E.Blackburn(スウェーデン ルンド大学 准教授)
V.Ryukhtin(チェコ チェコ科学アカデミー研究所 研究員) R.Cubbit(フランス ラウエランジュバン研究所 研究員)
S.Mühlbauer(ドイツ ミュンヘン工科大学 研究員) E.Foley(理化学研究所 CEMS SCSRT 技師)
M.Soda (お茶の水女子大学)

④14:25-14:45
安価な小型飛跡検出器の開発
河野 能知（基幹研究院 自然科学系 准教授）

開催場所：共通講義棟1号館102室

☜お申込みは左QRコードより★当日申込歓迎★

第３回は6/25(水)13:20～14:10 (本館-113)です！

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

お問い合わせ：SDGs推進研究所事務局
Email： sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学SDGs推進研究所 令和7年度

SDGs研究助成 成果報告会

令和6年度に実施したSDGs研究助成の成果報告会を開催します。
本学学生・教職員の皆様、ぜひご参加ください！

第３回　6月25日(水) 13:20～14:10

①13:25～13:45

「食」の体験を通した持続可能性のための幼児教育実践研究：「食」の未来を考える素材としての「雑穀米」に着目して

刑部 育子（基幹研究院 人間科学系 教授）

宮里 暁美（お茶大アカデミック・プロダクション・寄附講座教授
（元お茶大こども園園長、現お茶大こども園特別アドバイザー））

内海 緒香（人間発達教育科学研究所 特任准教授）

光橋　翠（お茶大 基幹研究院 研究員）

②13:45～14:05

途上国におけるトイレ排水処理による病原リスク除去能力の実態

大瀧 雅寛（基幹研究院 自然科学系 教授）

Tushara Chaminda G.G.（スリランカ国立Ruhuna大学工学部 教授）

開催場所：本館 113室

☜お申込みは左QRコードより★当日申込歓迎★

お誘い合わせの上、ぜひご来場ください！

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

お問い合わせ：SDGs推進研究所事務局
Email： sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

サントリー
SDGs推進研究所
共同セミナー

企業から学ぶ サステナビリティ

SDGs

-水とペットボトル・サントリーを事例として-

限りある資源との向き合い方

なぜ企業は
サステナビリティに
取り組むんだろう？

2回連続の講座です

第1回

〔講義〕

「サステナビリティ経営と
ペットボトルリサイクル」

そもそもサステナビリティとは？
学生だから学べる、聞ける
絶好の機会！

7/2（水）
15：00～16：30

第2回

具体的に私たちは
どんなふうに行動を
変えられるんだろう？

〔ワークショップ〕

「リサイクル行動ワークショップ」

グループごとに
学内をまわって
課題を発見し、
解決策を共有
しよう！

7/9（水）
15：00～17：00

サントリーホールディングス株式会社
サステナビリティ経営推進本部
シニアアドバイザー
北村暢康氏（2回連続）

定員	20名限定　※要事前申し込み(先着順)
教室	共通講義棟1号館302室(2日間共通)
共催	サントリーホールディングス株式会社 お茶の水女子大学SDGs推進研究所

＼下記コードからお申し込みください／

申込コード

2週連続の講座です。
どちらかの日しか出席できない方は
ご相談ください

お問い合わせ先
SDGs推進研究所 事務局
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

SDGs

国際協力学　ゲスト講師講演会

限りある資源との向き合い方

-サントリーのサステナビリティ経営から読み解く-

講 師

サントリーホールディングス株式会社
サステナビリティ経営推進本部
シニアアドバイザー

北村暢康氏

7月4日 (金) 13：20～14：50

共通講義棟2号館102室

※この講演は「国際協力学」の授業の一環ですが、本学の教職員・学生はどなたでも自由に参加できます。

〔概要〕

地球上にある「資源」と呼ばれるものを消費しながら、この人間社会は成立しています。しかしながら資源は有限であり、手を打たなければ、いつかその使用・消費を前提とした社会は立ち行かなくなります。
省エネ、省資源、リサイクル、サーキュラーエコノミー・・・
いま世界は知恵を出し合い、この課題に挑んでいます。
「水と生きる」企業・サントリーのサステナビリティ経営の事例をもとに、この課題を読み解いていきます。

←参加申し込みは
左のQRコードから

後援：お茶の水女子大学SDGs推進研究所

【問合せ先】
文教育学部グローバル文化学環/SDGs推進研究所
荒木（araki.minako@ocha.ac.jp）

ボトルは資源！
サステナブルボトルへ

サントリー
SDGs推進研究所
合同企画

ボトルtoボトル

BtoBリサイクルチャレンジ!!

＝日常の、ちょっとした工夫で、CO_2を減らそう！＝

※ BtoB（ボトルtoボトル）とは？
飲料等の使用済みペットボトルを原料に、再び新しいペットボトルとして再生・リサイクルする方法。これにより化石由来原料の新規使用を減らし、何度でも繰り返して使えるので、CO_2削減にもつながります。

本年7月に開催したサントリー＆SDGs推進研究所共同講座「企業から学ぶサステナビリティ」の好評を受け、今回は身近なペットボトルのリサイクルを題材に、「資源循環」の実現にチャレンジします。
企業との協働を通して、日常生活から実践できるSDGsアクションを、体験してみませんか？

全4回実施予定

本学学生どなたでも、
本年7月開催分未参加でも
参加可能！

〔第１回〕 **10/29**（水）

〔第２回〕 **12/3**（水）

本館113室　13：20～14：50（第1回、第2回共通）

第３回以降、学外フィールドワークを予定

ナビゲーター　サントリーホールディングス株式会社
サステナビリティ経営推進本部
シニアアドバイザー　北村暢康氏　他

定員　20名限定　※要事前申し込み(先着順)

共催　サントリーホールディングス株式会社
お茶の水女子大学 SDGs推進研究所

QRコード

＼右のQRコードからお申し込みください↗／

お問い合わせ先
SDGs推進研究所 事務局
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

OCHA-SDGs学生委員会

大学フードドライブ

12月1日（月）～12日（金）

場所：生協1階、図書館入口

フードドライブとは

家庭で食べる機会を失った食品を集め、福祉団体やフードバンクへの寄付を通して、必要とする人のもとへ届ける活動。
今回集められた食品は認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパンに寄贈します。

回収品の例

・米、乾麺
・レトルト食品
・缶詰
・お菓子
・穀類
・調味料

回収品の条件

・未開封
・包装が破損していない
・賞味期限が明記されており、かつ期限が2ヶ月以上先
・瓶詰の食品ではない
・常温保存が可能である
※ベビーフード、介護食、アルコール類は不可

＼フードドライブに関するアンケートにご協力お願いします／

アンケートのQRコード

みなさんはどんな食品を
「おすそ分け」したいですか？
たくさんの寄付をお待ちしています！

質問等ございましたら下記にお問い合わせください
総合研究棟2階209 SDGs推進研究所
mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学　創立150周年記念
SDGs推進研究所主催　公開シンポジウム

災害レジリエントな社会の実現に向けて
～避難生活の質の向上を目指す～

2026年
2月17日(火)
15:30～17:30

SDGs推進研究所は、生活者の視点に立った SDGs の推進を特徴としています。お茶の水女子大学の創立150周年を記念して開催する本シンポジウムでは、災害に備えた暮らしの質向上と未来社会のあり方を探ります。**奮ってご参加ください！**

お茶の水女子大学
共通講義棟２号館201室
一般公開　※要事前登録
（参加費無料）
以下のURLまたは右のQRコードから
お申し込みください
https://forms.office.com/r/qgjvceyhXA

開会挨拶・趣旨説明　斎藤 悦子 氏　お茶の水女子大学 SDGs推進研究所 所長

講演1　**「自治体の避難所の生活の質の向上を目指して～産官学連携による実態調査と見える化～」**
千野 祥瑚 氏　東京ガス株式会社 地域共創カンパニー カーボンニュートラルシティ推進部 主任

講演2　**「備蓄食品の選び方」**
須藤 紀子 氏　お茶の水女子大学　基幹研究院 自然科学系 教授

講演3　**「大規模災害後の安心できる衛生的な生活に向けて～東日本大震災、能登半島地震などの現場から～」**
池本 久利 氏　日本工営株式会社 基盤技術事業本部 環境部

講演4　**「2024年台湾花蓮地震における避難所環境の特徴」**
佐藤 寛華 氏　お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻
食品栄養科学領域 博士後期課程3年　（お茶の水女子大学附属高等学校 卒業生）

講演5　**「ジェンダー多様性を踏まえた災害対応へ」**
瀬山 紀子 氏　埼玉大学 ダイバーシティ推進センター/社会変革研究センターレジリエント社会研究部門

司　会　小中 鉄雄 氏　SDGs推進研究所客員教授・埼玉大学研究機構教授

お問い合わせ　SDGs推進研究所事務局
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

主催　お茶の水女子大学SDGs推進研究所
共催　東京ガス株式会社
協力　日本工営株式会社、埼玉大学

お茶の水女子大学　SDGs 推進研究所

2025 年度　SDGs 認知度調査

結果のまとめ

Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

【目次】

調査の趣旨

＜学生編＞

1-1　お茶大生と SDGs（結果の概要） p.1
1-2　調査の概要 p.2
1-3　調査結果
（１）対象者の特徴 p.4
（２）SDGs 認知度 p.5
（３）SDGs に対する関心 p.6
（４）SDGs 各目標に関する知識・態度・行動 p.9
（５）SDGs 達成に向けた行動の実施状況 p.12
（６）お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の方針や活動について p.26
（７）SDGs に関してお茶大に求めること p.29

＜教職員編＞

2-1　教職員と SDGs（結果の概要） p.35
2-2　調査の概要 p.36
2-3　調査結果
（１）対象者の特徴 p.38
（２）SDGs 認知度 p.39
（３）SDGs に対する関心 p.40
（４）SDGs 推進活動に対する参画意識 p.41
（５）SDGs 推進研究所の活動に対する認知度 p.53
（６）本学 SDGs 推進活動に対するご意見 p.56

＜参考資料＞

1）調査質問票（お茶大生対象） p.58
2）調査質問票（教職員対象） p.71

調査の趣旨

SDGs 推進研究所は、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の達成に向けた実践活動を統合的に推進する拠点として、生活者を起点とした教育・研究プログラムの企画・実施に取り組んでいる。また、地域社会、民間企業、各種機関との連携を通じて、社会全体で SDGs の達成を推進するための人材養成を行っている。

本研究所では、2022 年度から 2027 年度にかけて事業を展開しており、その学内外への波及効果を適切に把握するためには、SDGs に関する継続的なデータの収集・分析・評価が不可欠である。

このような背景のもと、本調査では、本学の学生および教職員を対象として、SDGs の認知度や参画意識等を把握することを目的に、以下の 2 つの調査を実施している。

（1）本学学生（学部生・大学院生）を対象とした、SDGs の認知度、知識・態度・行動、参画意識、および社会課題解決に資する生活行動・習慣に関する調査

（2）本学および附属学校園教職員を対象とした、SDGs の認知度および業務を通じた参画意識に関する調査

2025 年度には 2022-2023 年度に取得した初期値に続き、事業開始から 3 年の 2025 年度には成果を評価するための中間値を取得するために、調査を実施した。

調査（1）では、本学学生を対象にオンライン調査を実施した。若年層は、在学中から SDGs に関する学修機会を有する点で他世代と異なる特徴を持つ一方で、こうした学修環境が認知度や生活行動にどのような影響を及ぼすかについては十分に明らかになっていない。本調査により、将来的な人材養成の対象となる学生の実態を把握し、より効果的な SDGs 推進活動の展開に資する知見を得ることを目的とした。

調査（2）では、本学および附属学校園教職員を対象にオンライン調査を実施した。SDGs に関する教育・研究プログラムの開発および実装には教職員の主体的な関与が不可欠であり、その認知度や参画意識は事業の成否を左右する重要な要因である。本調査では教職員の現状を把握し、今後の事業活動に資する基礎資料の収集を目的とした。

さらに、本調査はパネル調査として位置付けられており、2027 年度には最終測定を実施する予定である。これにより、経年的な変化を把握し、本研究所の事業の効果検証を行う。

本調査で得られた知見は、2022～2023 年度の初期値との比較分析を通じて、本学における SDGs 推進活動の高度化に資する基礎資料として活用されるとともに、学内外の生活者の行動変容を促し、SDGs の達成に寄与することが期待される。

学生編

１－１お茶大生と SDGs（結果の概要）

p. 5-6
お茶大生のSDGs
認知度は95.8%
関心度は85.6%

p. 9-11
SDGsの各目標に対する知識・自分の行動との関わりの認識は2023年度より増加

p. 10
SDGsの目標4・5・16については他の目標よりよく知っており関心も高い

p. 11
自分の行動が達成に最も影響すると考えているのは目標12

p. 12
目標達成のために具体的な行動をとっていると考える学生は53.9%（増加）

p. 22
食ロス削減活動や募金活動への参加・協力が2023年度より増加

p. 27-28
おゆずりフェスやOchaEco弁当などの学生委員会の活動の認知度が高い

1-2　調査の概要

【目的】

お茶の水女子大学学生における①SDGs 認知度、②参画意識、③SDGs に関する知識・態度・行動との関連、④①～③に関する 2022 年からの推移を明らかにするために、オンライン質問紙調査（無記名自記式）による横断研究を実施すること。

【方法】

（１）研究デザイン：横断研究

本学学生を対象とした無記名オンライン調査

（２）調査の対象者

2025 年度本学に在籍していた学部生（1～4 年生）、大学院生（博士前期課程 1～2 年生、博士後期課程 1～3 年生）合計約 2,700 名

（３）調査実施期間

2025 年 6 月 2 日～6 月 30 日

（４）調査内容

質問項目リスト参照

※2022 年度に実施した同様の調査のデータも使用する。調査内容以外の詳細は 2022 年度報告書に記載済であるため省略する。

質問項目リスト

セクション	No.	内容	質問 項目数	2022 年度	2025 年度
A	1	本学への所属	1	○	○
A	2	学籍番号の上 5 桁（入学年度・所属学部・学科）	1	○	○
A	3	年齢	1	○	○
A	4	母国語	1	○	○
A	5	居住形態	1	○	○
A	6	生活のゆとり感	1	○	○
A	7	学生生活充実度	1	○	○
A	8	2025 年度前期の登校日数	1	○	○
B	1	SDGs の知識	1	○	○
B	2	SDGs への全般的な関心	1	○	○
B	3	SDGs に関心を持ったきっかけ	1	○	○
B	4	SDGs 各目標への知識	17	○	○
B	5	SDGs 各目標への関心	17	○	○
B	6	SDGs 各目標と自分の生活との関連	17	○	○
C	1	SDGs 実践行動の全般的な実践状況	4	○	○
C	2	SDGs に関する生活行動	6	○	○
C	3	夏季の冷房設定室温	1	○	○
C	4	SDGs に関する食行動	12	○	○
C	5	朝食摂取状況	1	○	○
C	6	SDGs の目標達成のための主体的な活動の実践状況	12	○	○
C	7	男女の役割にとらわれない行動	1	○	○
C	8	いじめや不登校の経験	1	○	
D	1	SDGs 推進研究所の活動に対する認知度	11		○
E	1	本学の SDGs に対する自由意見	1	○	○
F		IMC 質問	1	○	○
N/A		ダミー質問	5	○	○
		total	118	107	117

1-3　調査結果

（１）対象者の特徴

	初年度		2025 年度		p^a
	n/平均	%/SD	n/平均	%/SD	
合計（人）	424	100	404	100	-
性別（人）					
女性	424	100	404	100	-
年齢（歳）	21.3	3.2	20.2	2.84	<0.001
居住形態（人）					
一人暮らし	90	21.2	96	23.8	
実家暮らし（お茶大）	234	55.2	217	53.7	
寮暮らし（お茶大）	98	23.1	78	19.3	-[b]
その他	-		13	3.2	
無回答	2	0.5	0	0	
暮らし向き（1：全くゆとりがない～5：ゆとりがある）	3.5	1.09	3.5	1.15	0.48

[a] t 検定

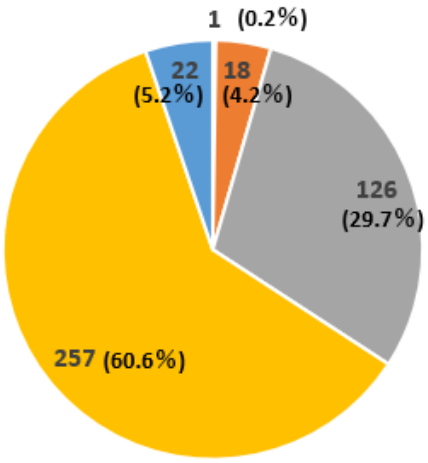
[b]2025 年度は居住形態の質問に「その他」を設けたため検定しなかった。

※中間報告書及び 23 年度報告書において、初年度（2022-2023 年度）調査の本学学生の居住形態の人数分布が誤っておりました。お詫びして訂正いたします。

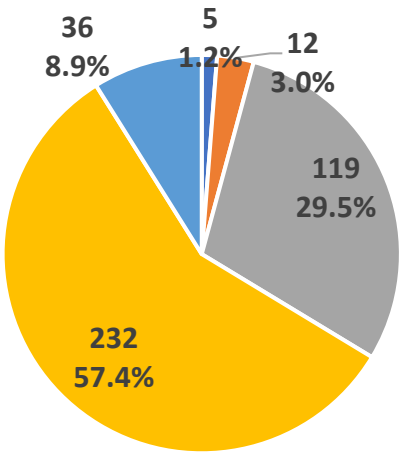
（２）SDGs 認知度

あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

初年度（n=424）



2025 年度（n=404）



- 1.名前を聞いたことがない。
- 2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4.上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5.上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

カイ二乗検定，p=0.08

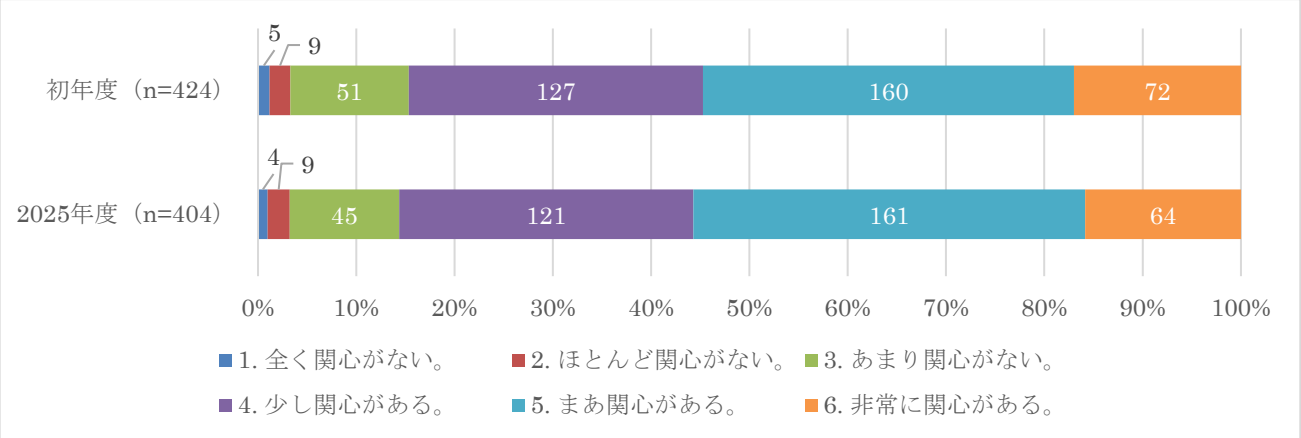
SDGs 認知度（上記項目で 3～5 と回答した者の割合）は、

初年度：95.5%、2025 年度：95.8%であった。

初年度と 2025 年度の間に有意差はみられなかった。

（３）SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。



カイ二乗検定，p=0.99

SDG 関心度（上記項目で 4～6 と回答した者の割合）は、

初年度：84.7%、2025 年度：85.6%であった。

初年度と 2025 年度の間に有意差はみられなかった。

SDGs の認知度及び関心の属性による比較（n=404）

	有効回答数（人）	全体｛平均値（SD）｝	学部/大学院｛平均値（SD）｝						*p* 値†	年齢との相関§（r）
			文教育（n=123）	理（n=76）	生活（n=112）	共創工（n=23）	大学院（n=65）	留学生（n=5）		
認知度††	404	3.7 (0.7)	3.8 (0.8)[ab]	3.5 (0.7)[ac]	3.8 (0.6)[d]	3.9 (0.5)[e]	3.7 (0.7)[f]	2.4 (1.3)[bcdef]	<0.001	-0.11*
関心§§	404	4.5 (1.0)	4.7 (1.0)[a]	4.2 (1.1)[a]	4.6 (1.0)	4.5 (1.0)	4.6 (1.0)	4.0 (0.0)	0.55	-0.02

*<0.05, **<0.01, ***<0.001　　SD：標準偏差。　　[a~f]: 同じ文字を付した群間に有意差あり（*p*<0.05）

†一元配置分散分析　　§Pearson の相関係数

††選択肢：1.名前を聞いたことがない。；2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。；3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている。；4.上記 3 に加えて、17 のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。；5.上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

§§1.選択肢：全く関心がない。；2.ほとんど関心がない。；3.あまり関心がない。；4.少し関心がある。；5.まあ関心がある。；6.非常に関心がある。

＜表の見方＞

n：解析対象者の人数。例：文教育の列では、学生 123 人分のデータを使って解析している。

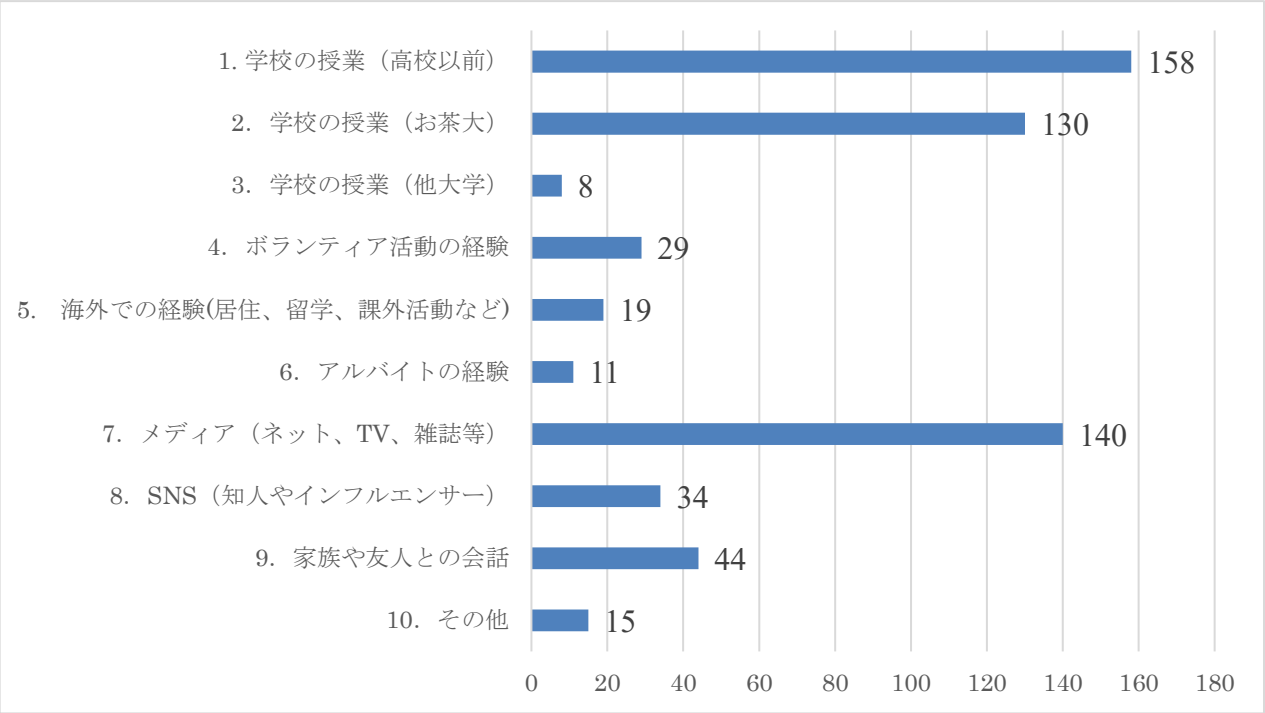
p 値：0.05 未満であれば、学部/学科により平均値に差があるとみなすことができる。（数値右上のアルファベット：同じアルファベット同士のグループ間で平均値の差がある）

年齢との相関：*、**、***がついている数値は、認知度/関心と年齢との間に相関関係あり。*の数が多い程、結果が確からしい。相関係数（数値）は-1～1 の値を取る。1 に近い程強い正の相関関係があり（例：年齢が高い程認知度/関心も高い）、-1 に近い程強い負の相関がある（例：年齢が低い程認知度/関心も高い）

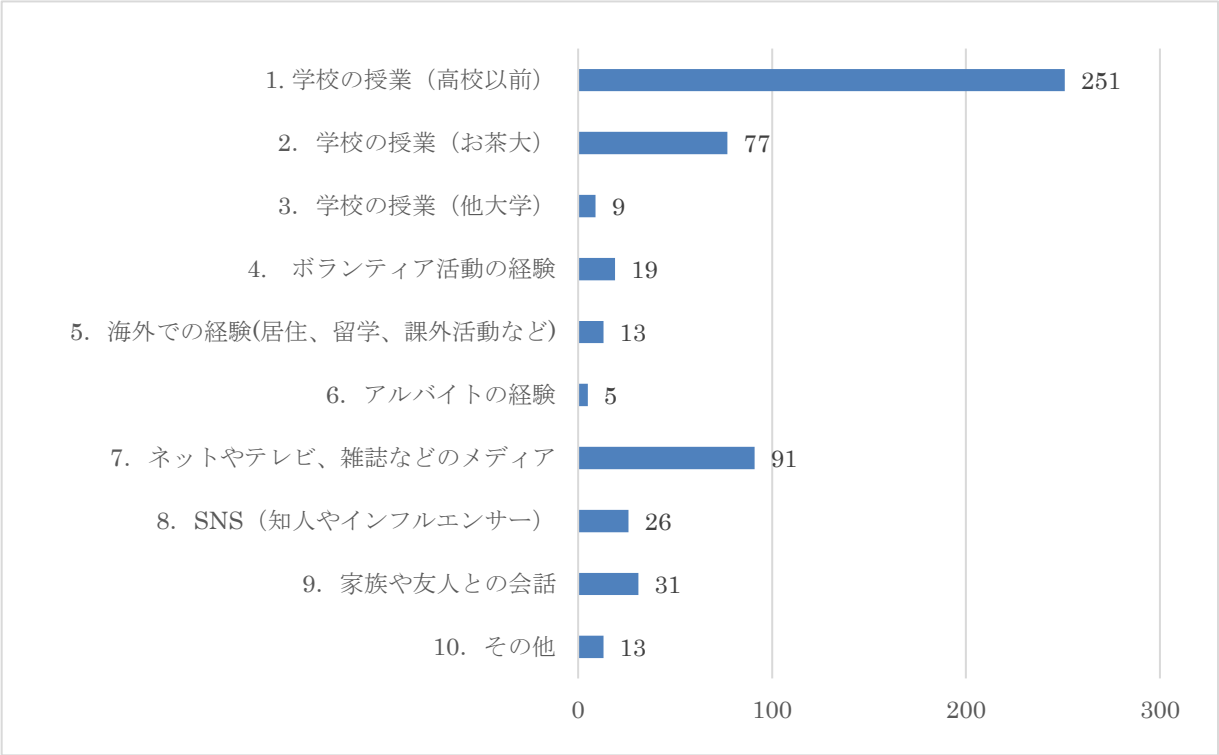
SDGs の認知度及び関心は、文教育学部の学生が理学部の学生より高く、年齢が若い程認知度が高い傾向があった。

あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。（複数選択可）

初年度（n=356）



2025 年度（n=404）

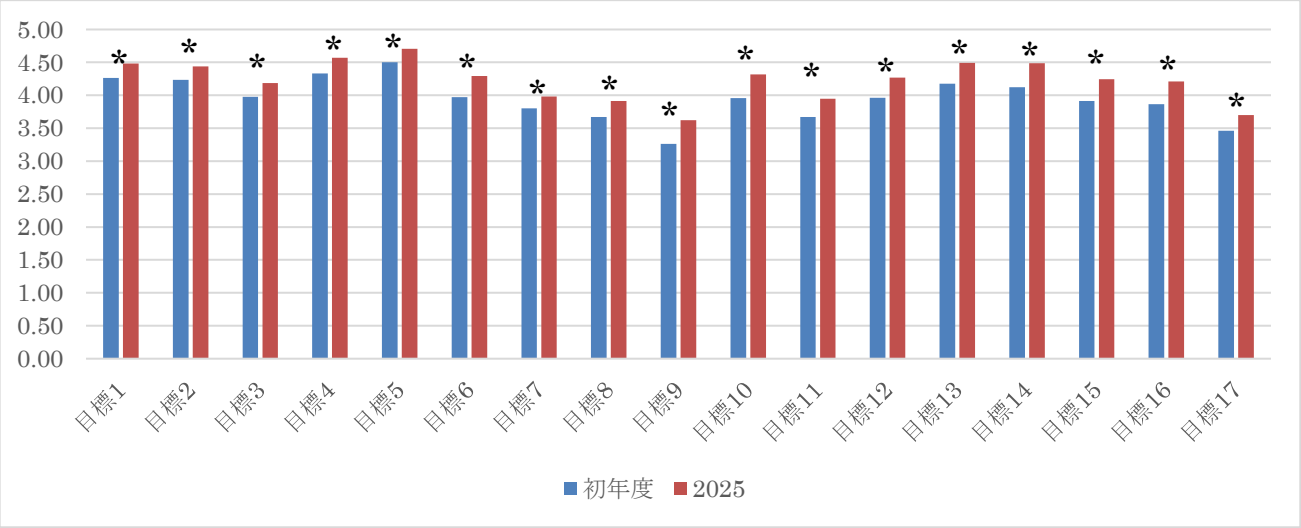


（4）SDGs 各目標に関する知識・態度・行動

①各目標に関する知識

あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

1：全く知らない～6：非常によく知っている　の 6 件法で回答



*p<0.05, t 検定

＜図の見方＞

*が付いている目標では、初年度と 2025 年度の回答の平均値に有意な差がある。

高得点/低得点を獲得した目標

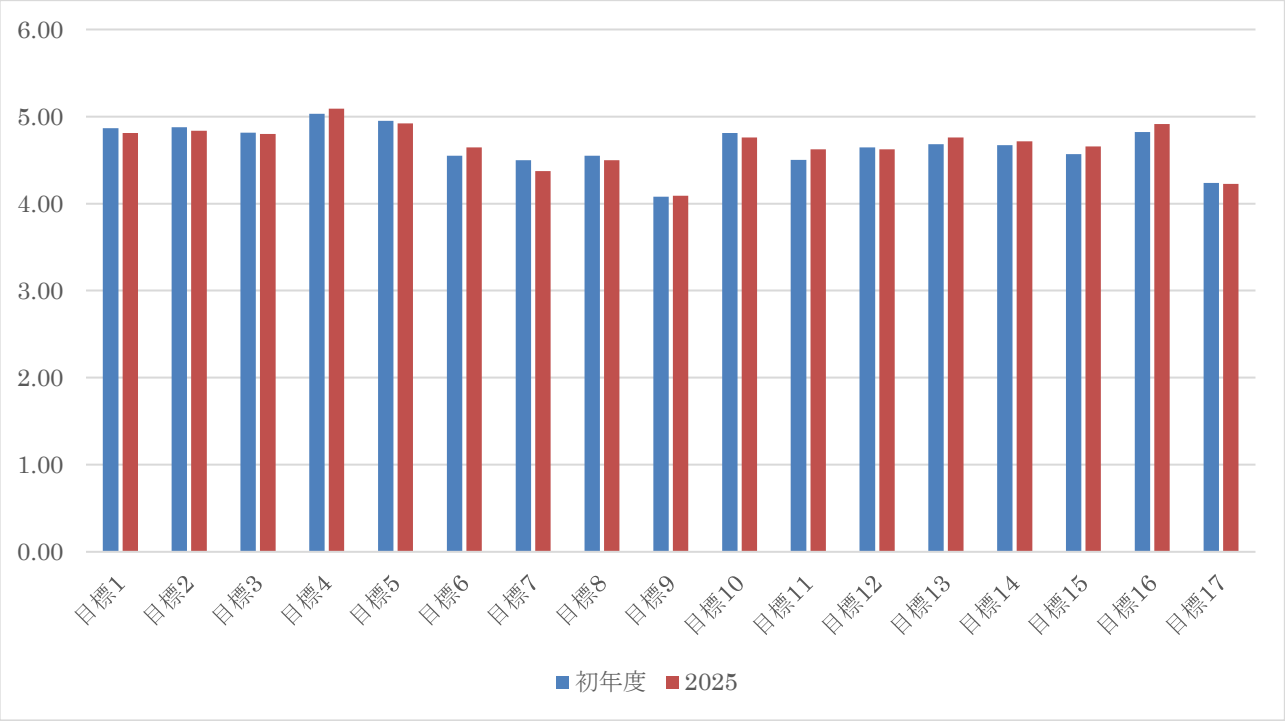
	初年度				2025 年度			
順位	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 5	4.7	目標 9	3.3	目標 5	4.7	目標 9	3.6
2	目標 4	4.4	目標 17	3.5	目標 4	4.6	目標 17	3.7
3	目標 1	4.4	目標 8	3.7	目標 13	4.5	目標 8	3.9

初年度と比較して、2025 年度では全ての目標に対する知識得点が増加していた。
初年度も 2025 年度も、目標 5 に関する知識が全 17 の目標中最も高かった。

②各目標に対する態度（関心の強さ）

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

1：全く関心がない～6：非常に関心がある　の 6 件法で回答



*p<0.05, t 検定

＜図の見方＞p.9 参照

高得点/低得点を獲得した目標

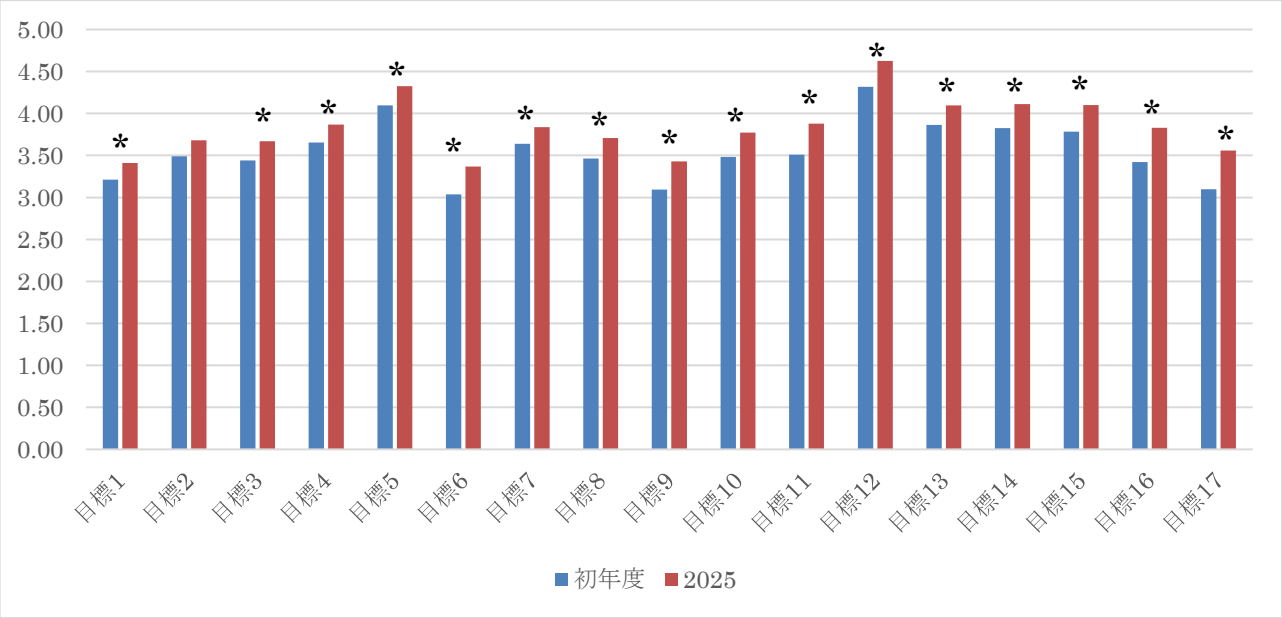
	初年度				2025 年度			
順位	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 4	5.0	目標 9	4.1	目標 4	5.1	目標 9	4.1
2	目標 5	5.0	目標 17	4.2	目標 5	4.9	目標 17	4.2
3	目標 2	4.9	目標 7	4.5	目標 16	4.9	目標 7	4.4

初年度から 2025 年にかけて全ての項目の関心得点の平均値に
有意な変化はみられなかった。
初年度も 2025 年度も、目標 4 に対する関心が全 17 の目標中最も高かった。

③各目標と自分の行動との関わり

あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

1：全く影響しない～6：非常に強く影響する　の 6 件法で回答



*p<0.05, t 検定

＜図の見方＞p.9 参照

高得点/低得点を獲得した目標

	初年度				2025 年度			
順位	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 12	4.3	目標 6	3.0	目標 12	4.6	目標 6	3.4
2	目標 5	4.1	目標 9	3.1	目標 5	4.3	目標 1	3.4
3	目標 13	3.9	目標 17	3.1	目標 14	4.1	目標 9	3.4

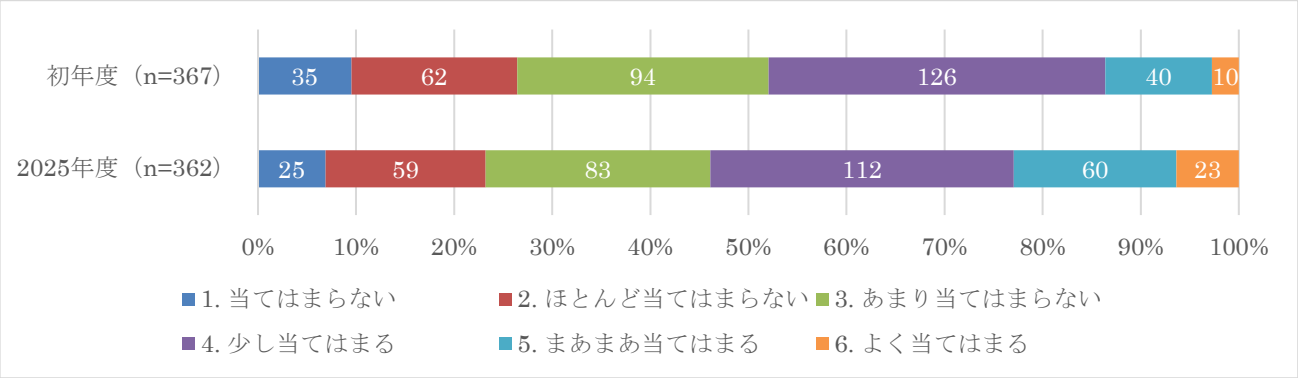
初年度と比較して、2025 年度では目標 2 以外の全ての目標に対する得点が有意に高かった。
初年度も 2025 年度も、目標 12 と自分の行動との関わりを最も大きく捉えていた。

（５）SDGs 達成に向けた行動の実施状況

①SDGs 達成のための行動全般（参画意識）

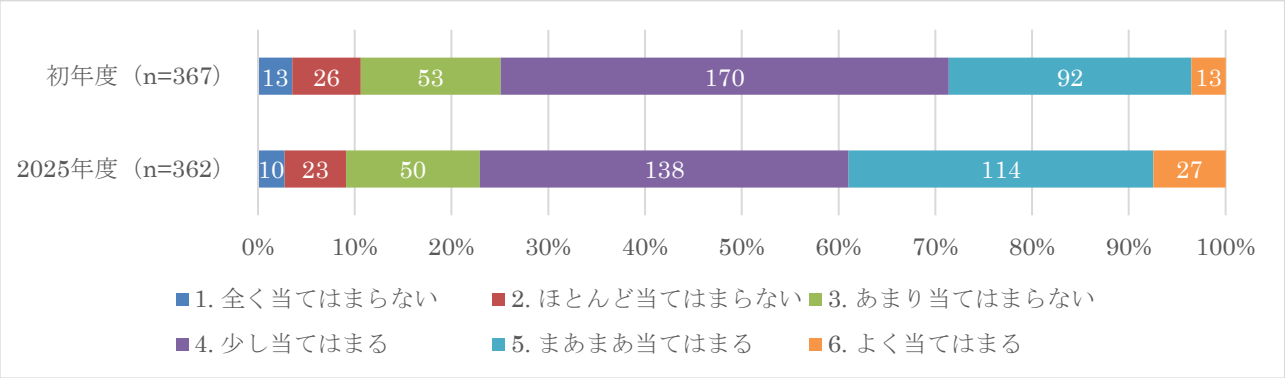
次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている



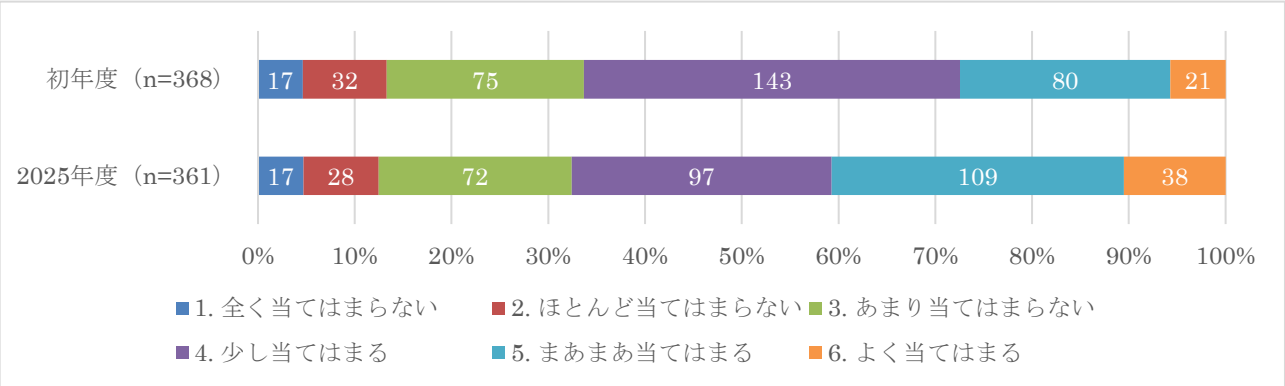
カイ二乗検定，p=0.03

私は、環境に配慮した生活行動をとっている



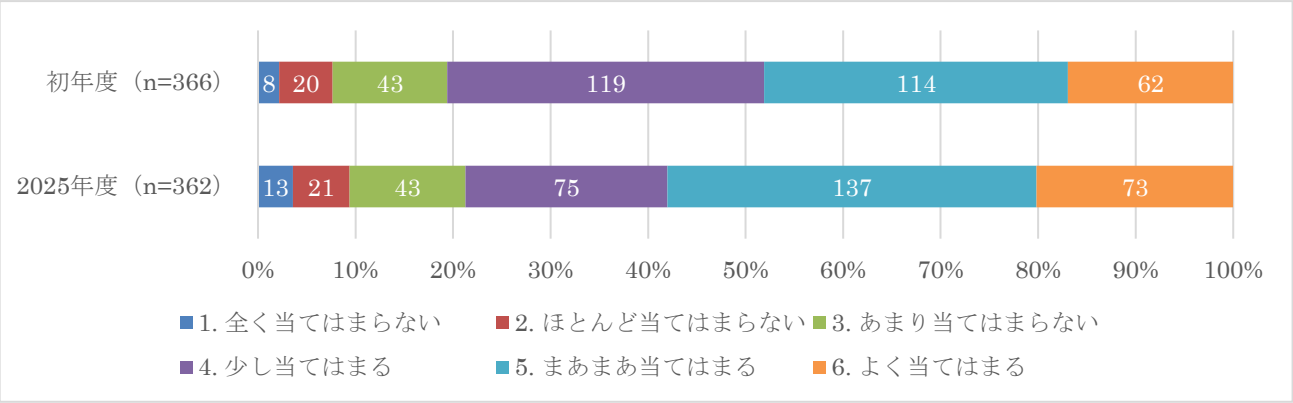
カイ二乗検定，p=0.04

私は、環境に配慮した食行動をとっている



カイ二乗検定，p=0.002

私は、健康的な食行動をとっている



カイ二乗検定，p=0.01

＜図の見方＞

n：解析対象者人数。各設問に無効回答があったため、n 数は設問ごとに異なる。

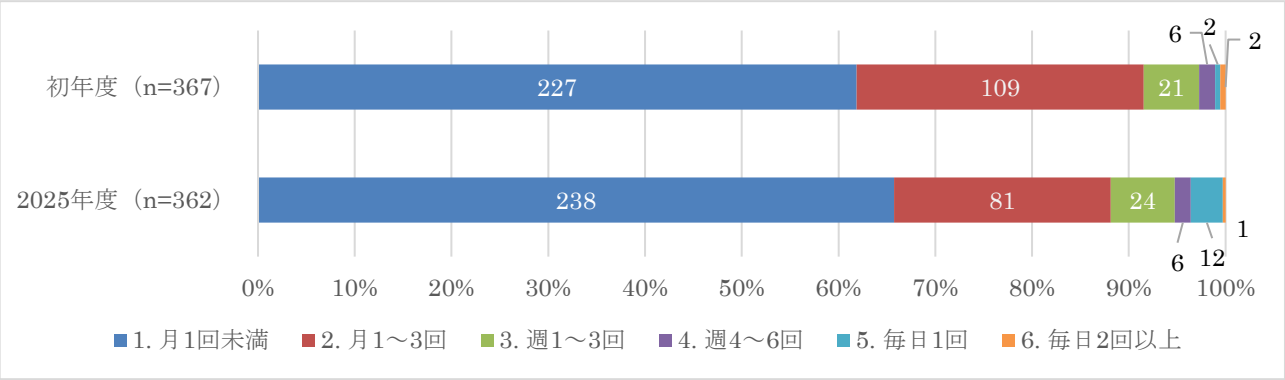
カイ二乗検定で p<0.05 であれば、初年度と 2025 年度の回答の分布が異なっている。

お茶大生の 53.9%が、SDGs 目標達成のために具体的な行動をとっていると回答しており、初年度と比較して有意に増加した。
お茶大生の 6 割以上が、生活の中で SDGs 達成に関連する環境配慮行動・食行動を実施していた。

②SDGs 達成のための生活行動

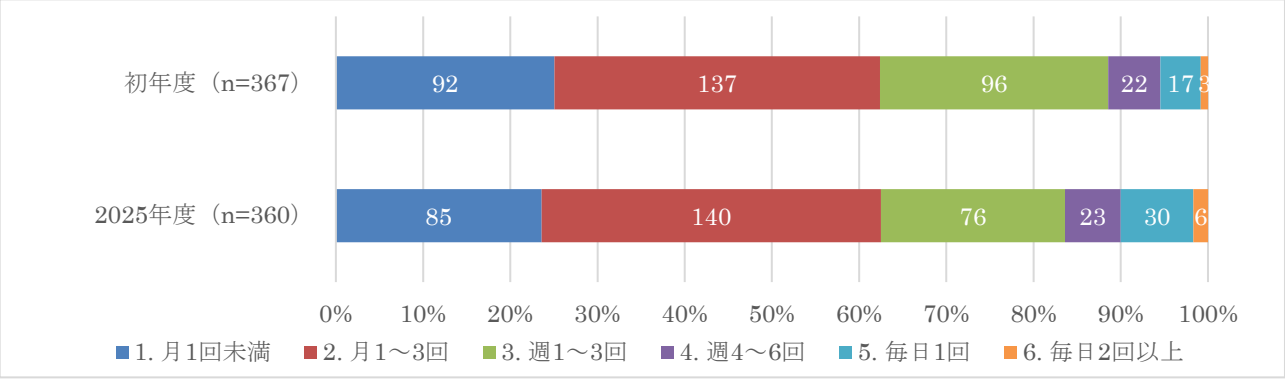
あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

買い物の際にレジ袋を購入する



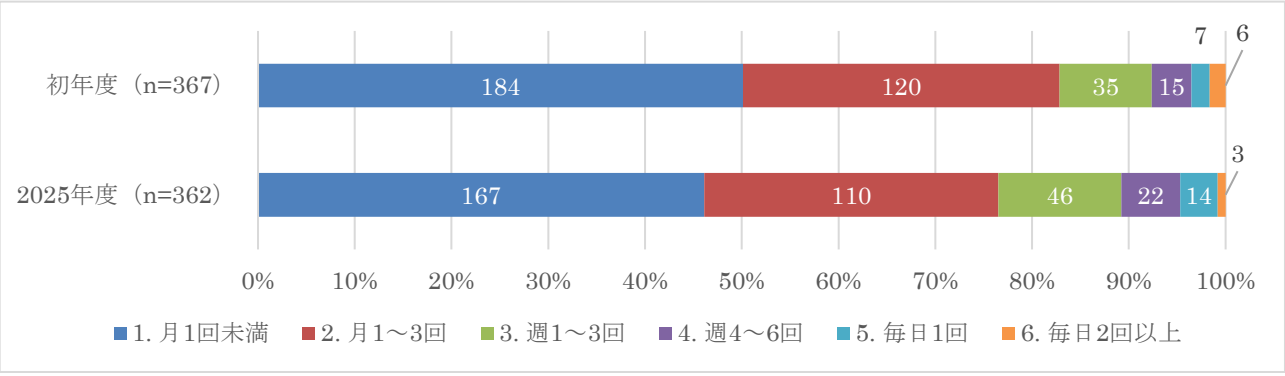
カイ二乗検定，p=0.03

ペットボトルを購入する



カイ二乗検定，p=0.20

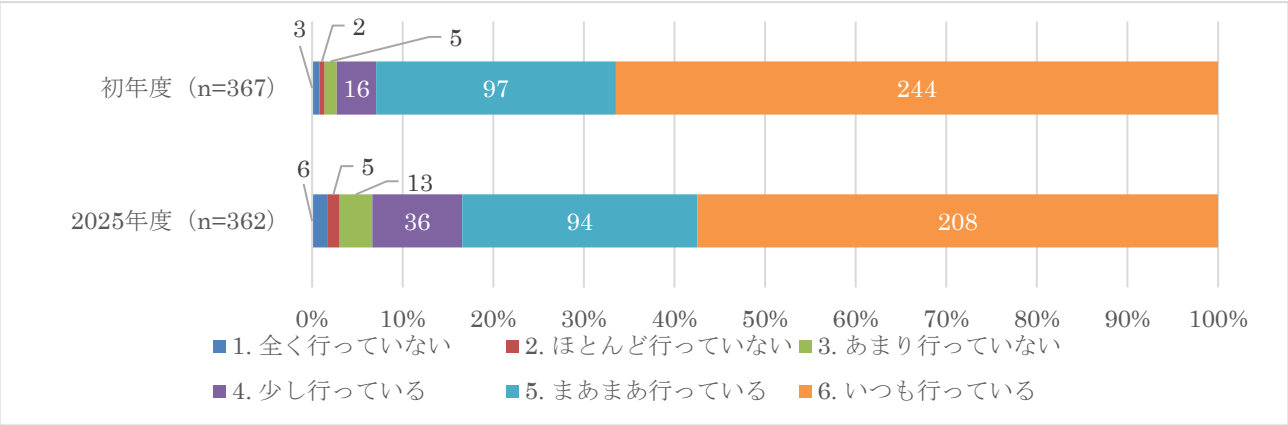
エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する



（FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。）

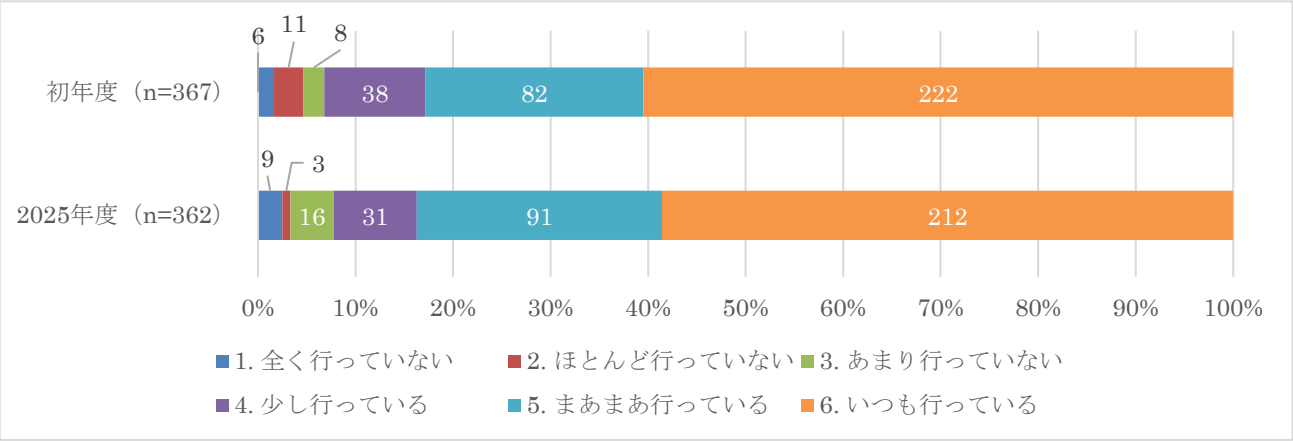
カイ二乗検定，p=0.19

地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する



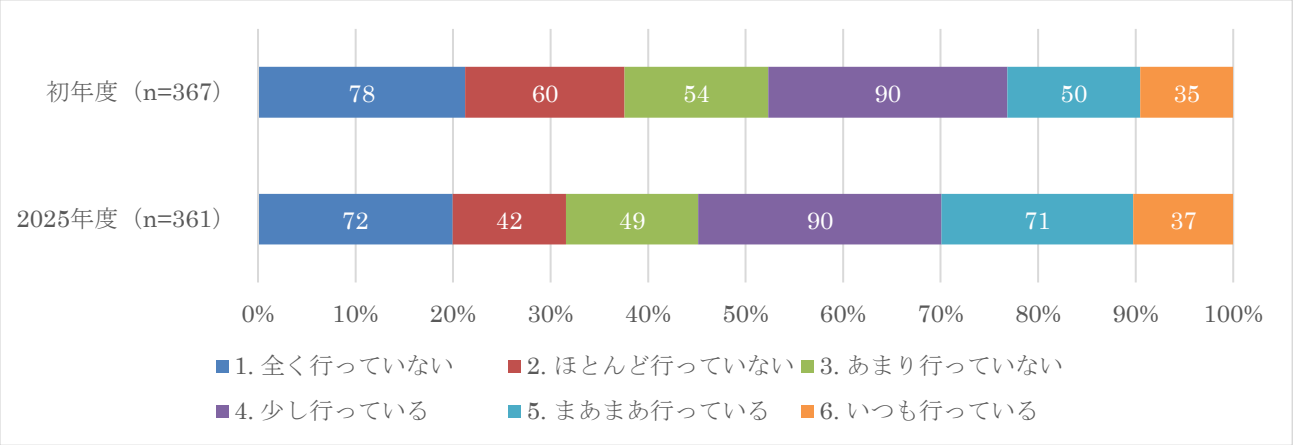
カイ二乗検定，p=0.006

移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う（自家用車やタクシーを使わない）



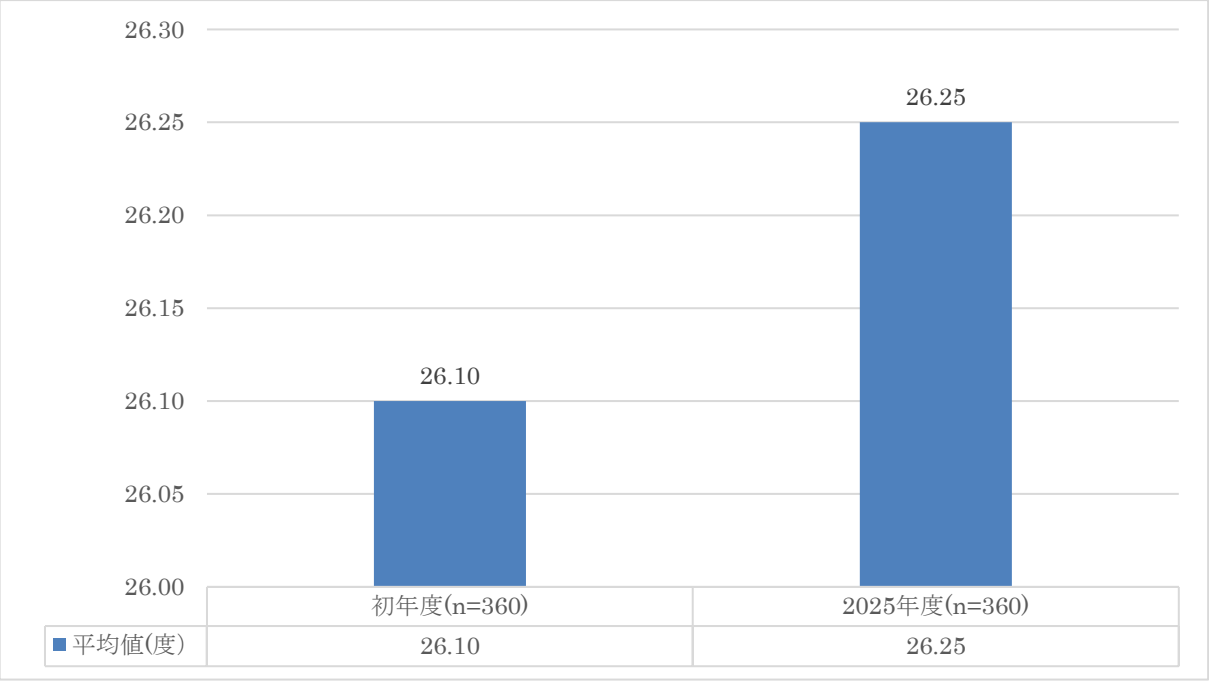
カイ二乗検定，p=0.10

古着や古本などの中古品を購入する



カイ二乗検定，p=0.20

あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

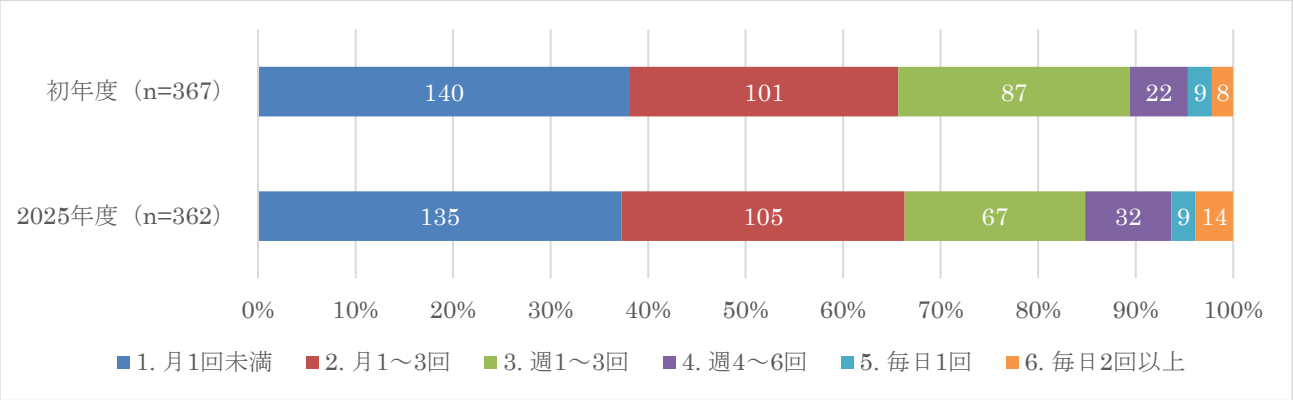


t 検定、p=0.33（t 検定で p<0.05＝初年度と 2025 年度の回答した温度に有意な差があると解釈できる。）

「自室に冷房がある」と回答した者に対し質問した。

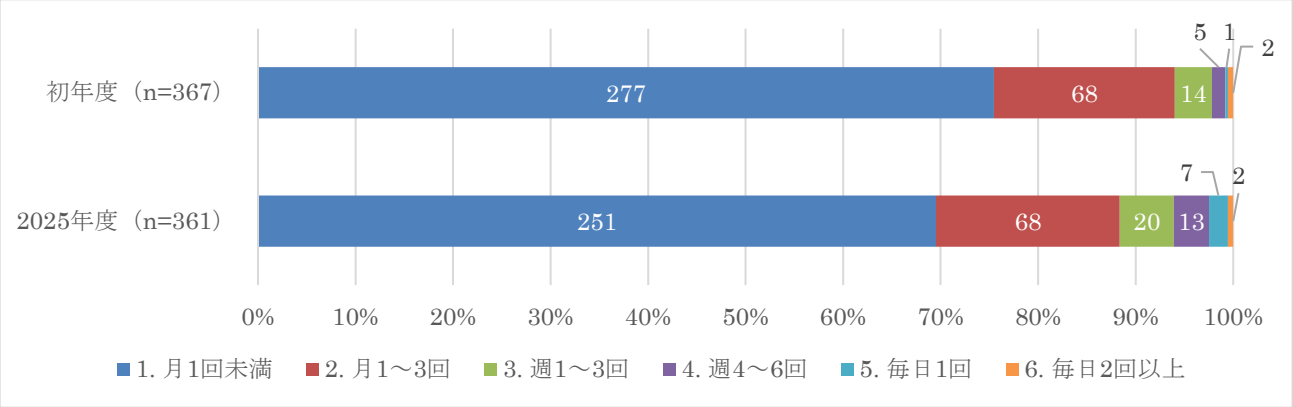
③SDGs 達成のための食行動

地産地消に配慮した食品を購入・注文する（例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等）



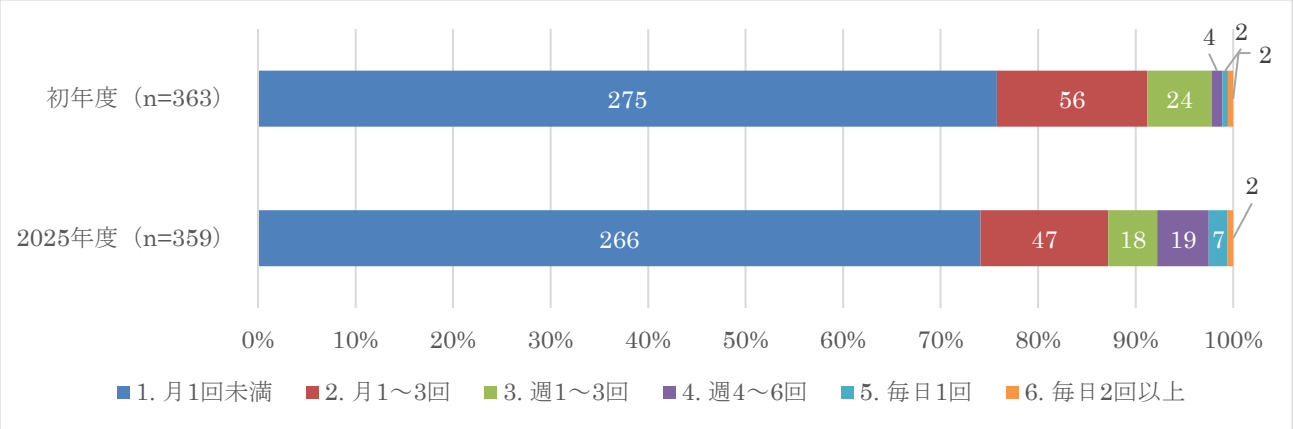
カイ二乗検定，p=0.29

フェアトレード食品を購入する



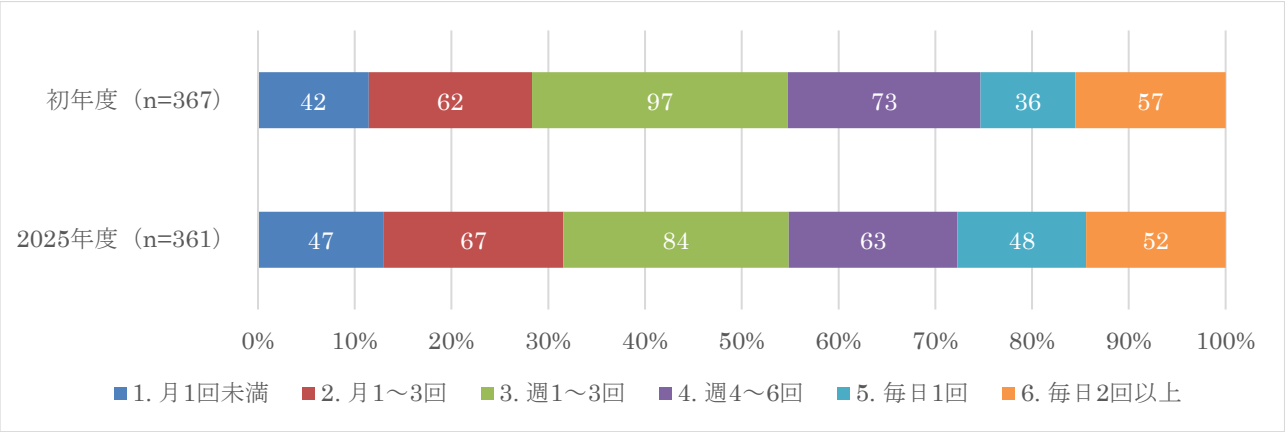
カイ二乗検定，p=0.07

動物福祉に配慮した食品を購入する｛例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）｝



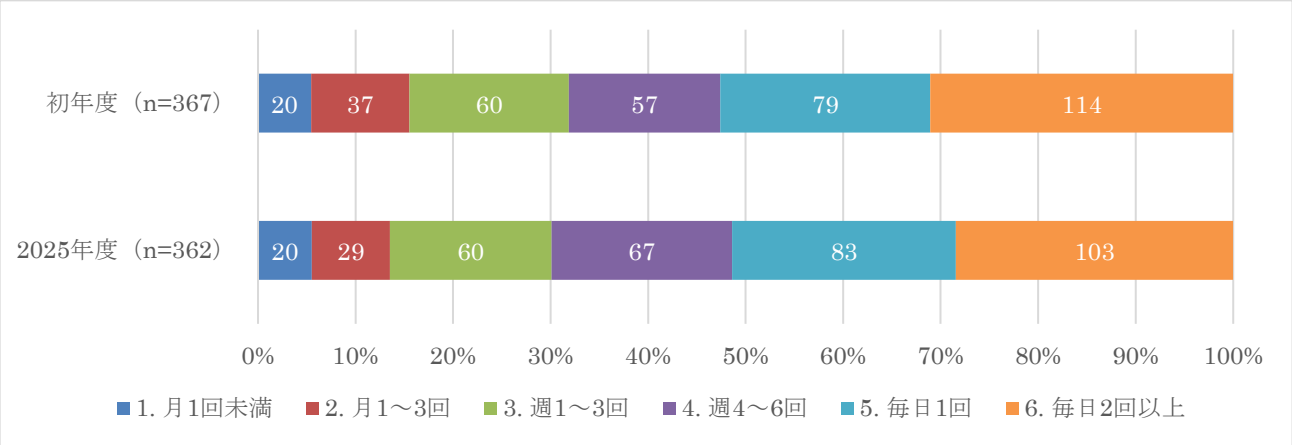
カイ二乗検定，p=0.01

食品購入時に「てまえどり」をする（賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること）



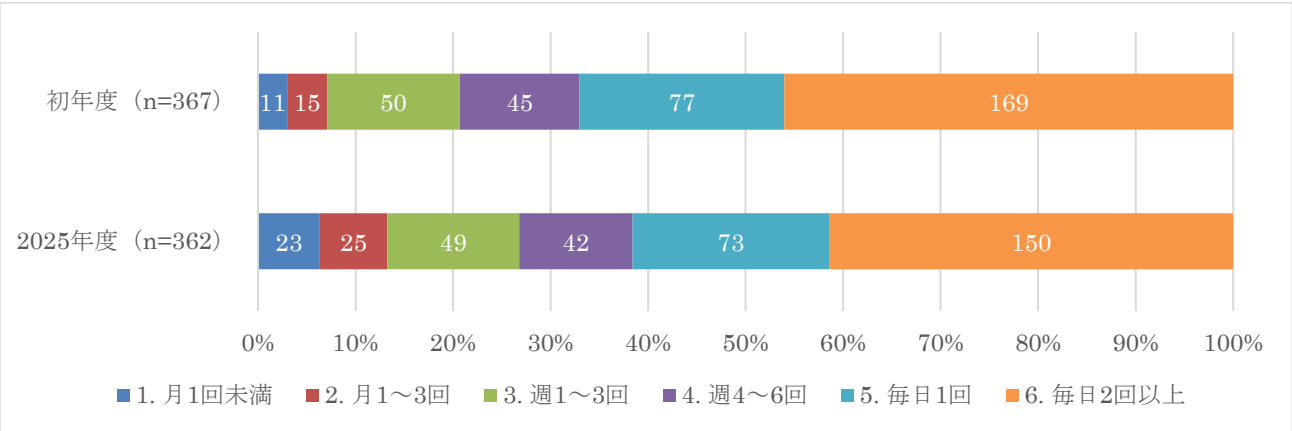
カイ二乗検定，p=0.54

主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる



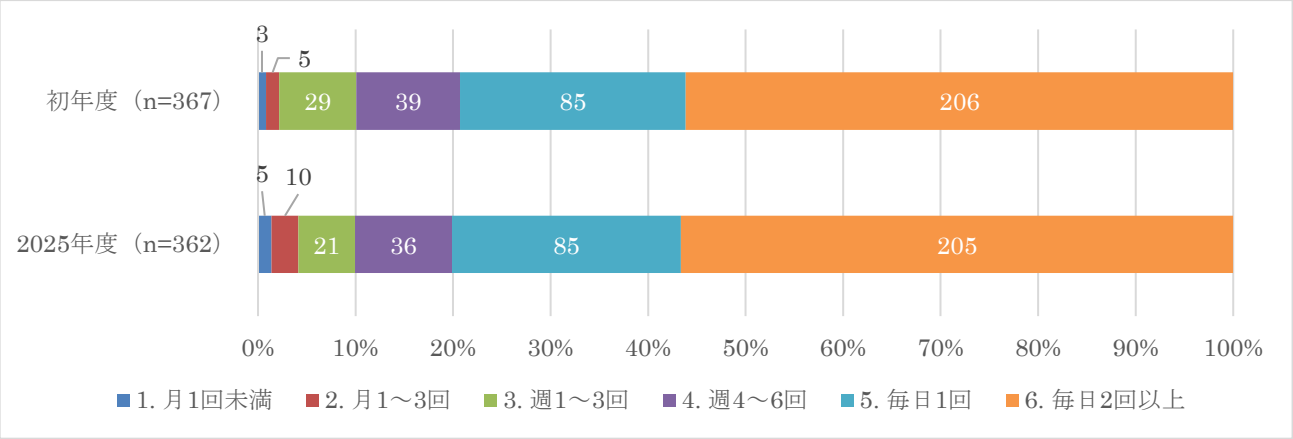
カイ二乗検定，p=0.79

家庭で調理されたものを食べる。（家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます）



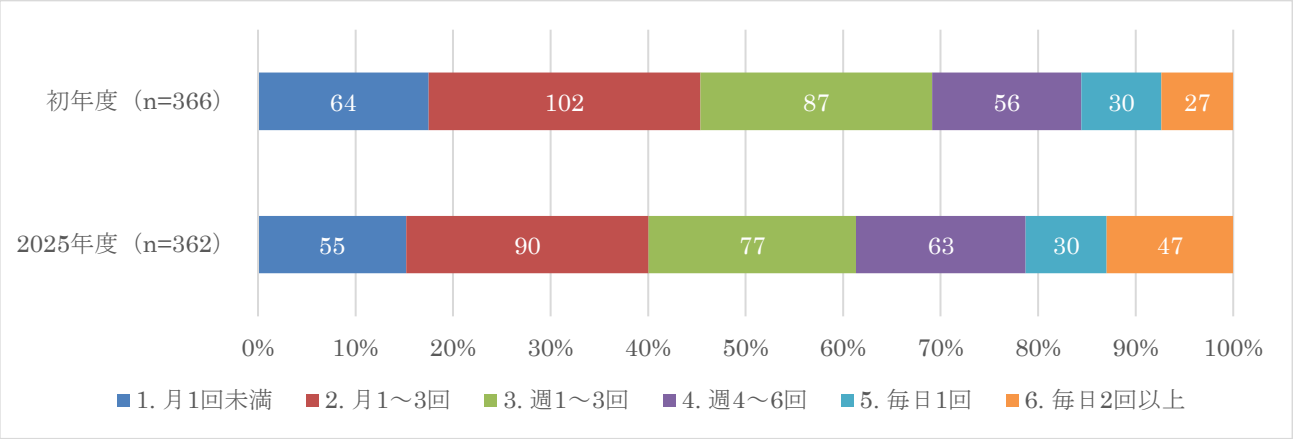
カイ二乗検定，p=0.15

野菜を食べる



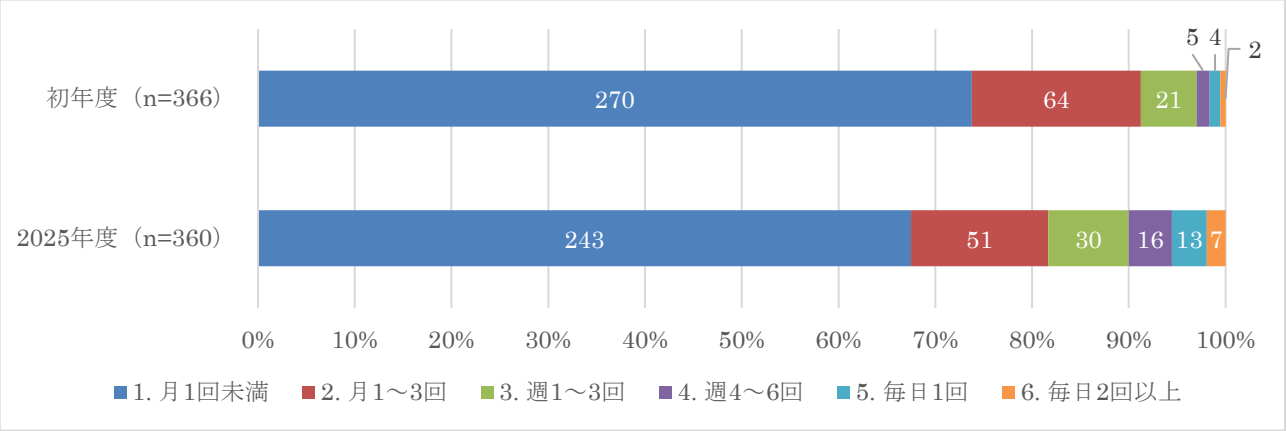
カイ二乗検定，p=0.62

牛肉を食べる



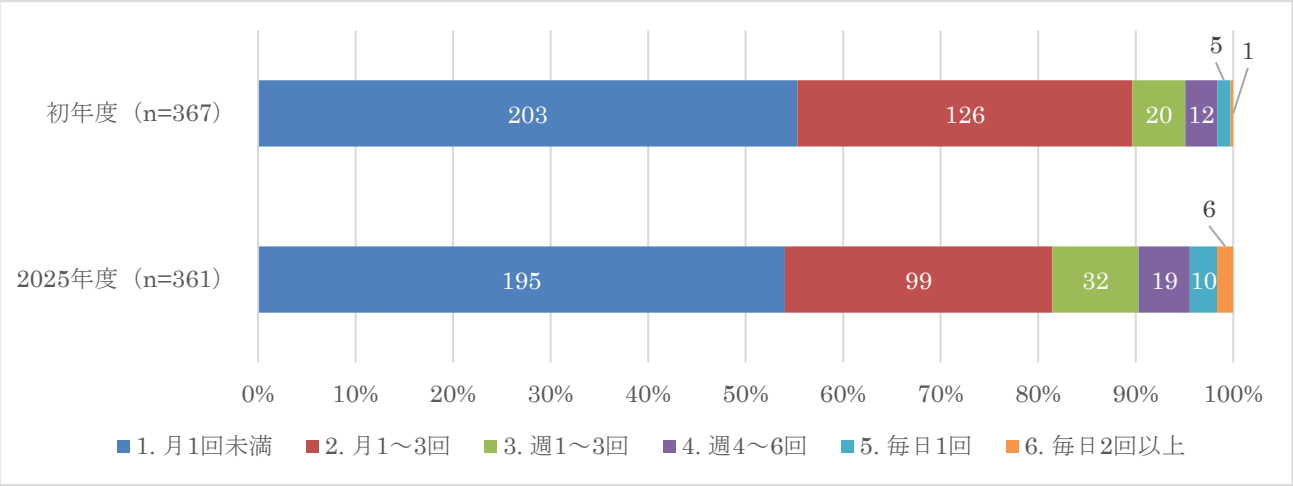
カイ二乗検定，p=0.17

代替肉を食べる。（例：大豆ミート、昆虫等）



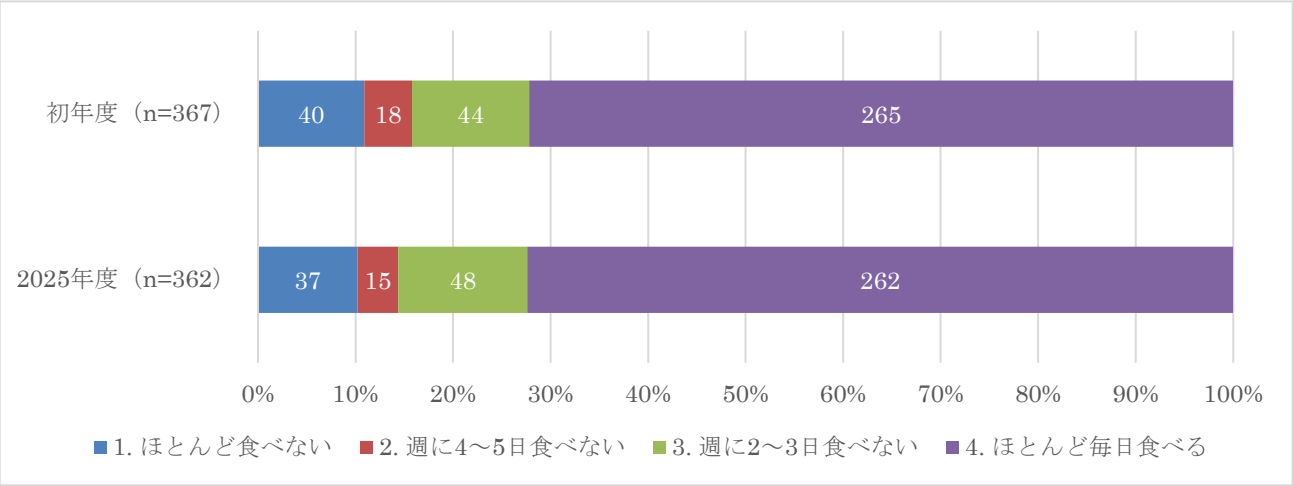
カイ二乗検定，p=0.003

本来食べられる食品を廃棄する。（例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す）



カイ二乗検定，p=0.02

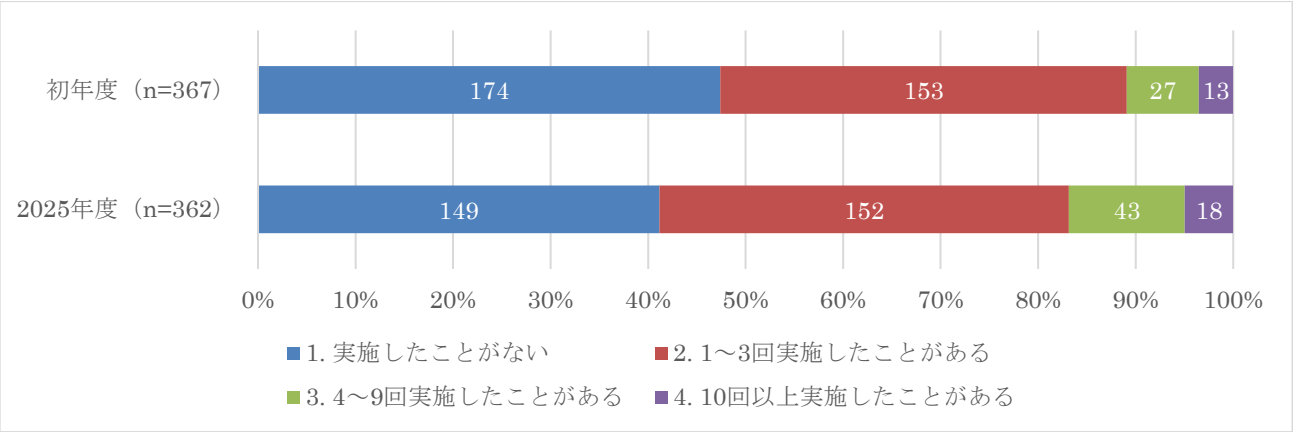
あなたはふだん、朝食を食べますか。



カイ二乗検定，p=0.91

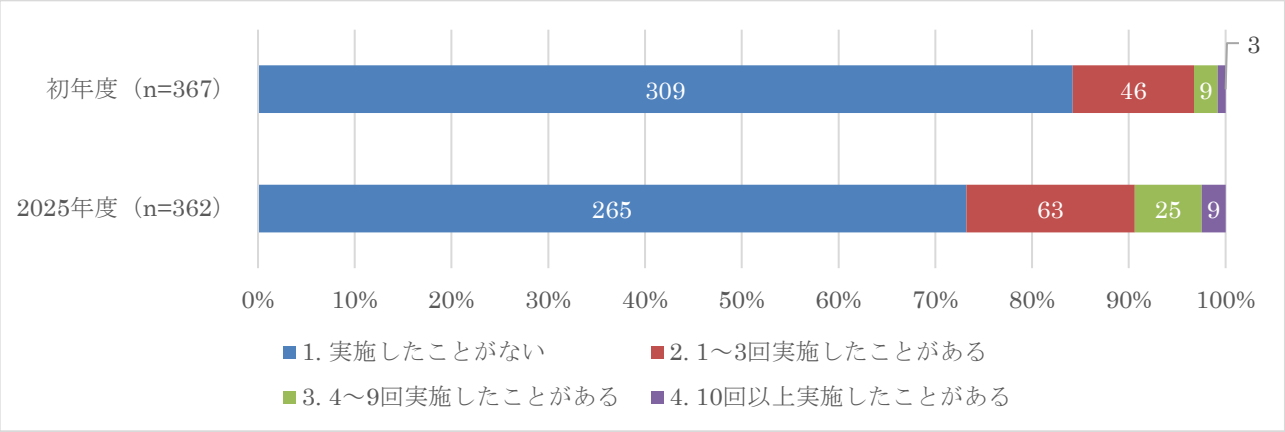
④SDGs 達成のためのその他の行動

学校の授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。（例：ゴミ拾い活動）



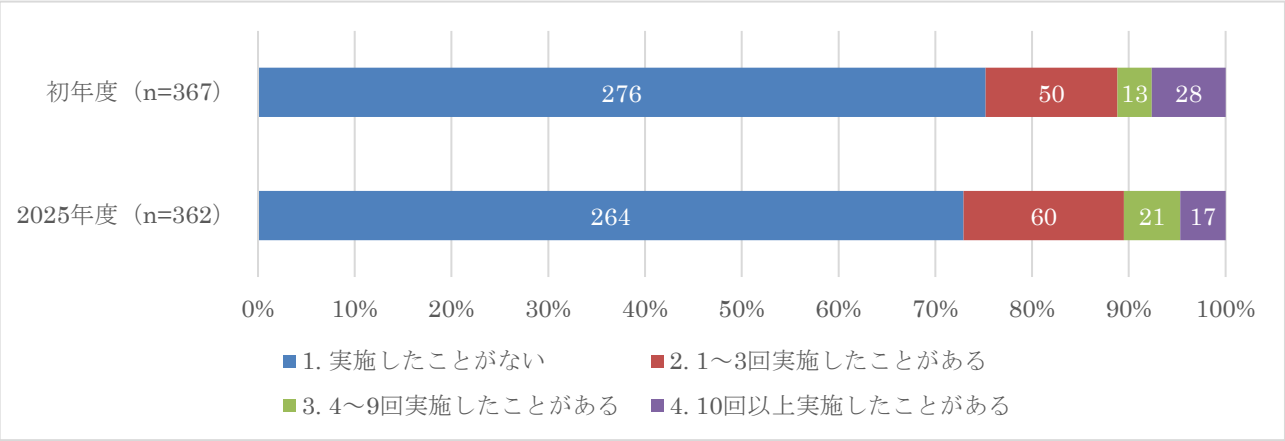
カイ二乗検定，p=0.10

学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信



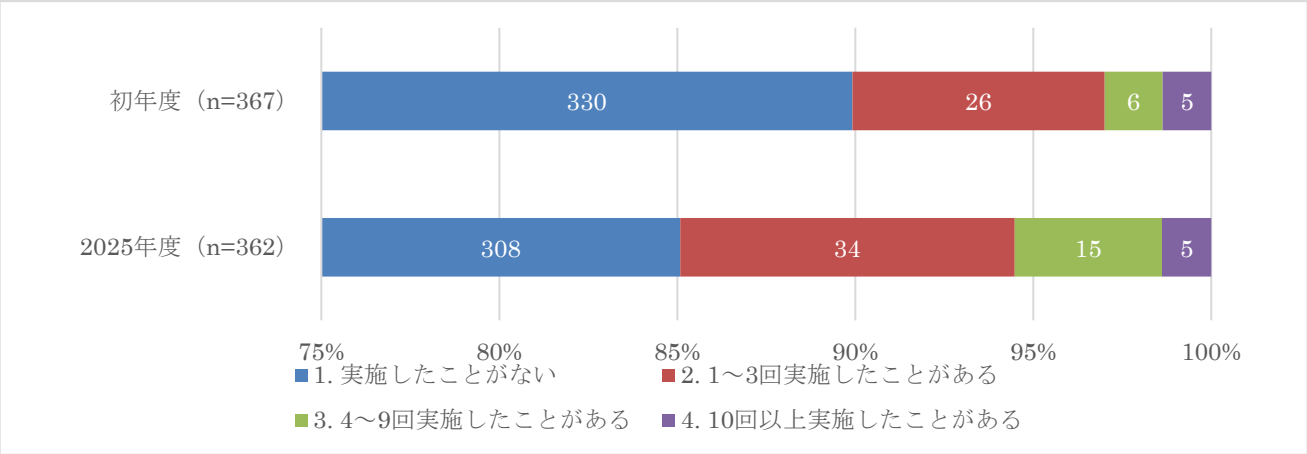
カイ二乗検定，p<0.001

国内の学習支援のボランティア活動



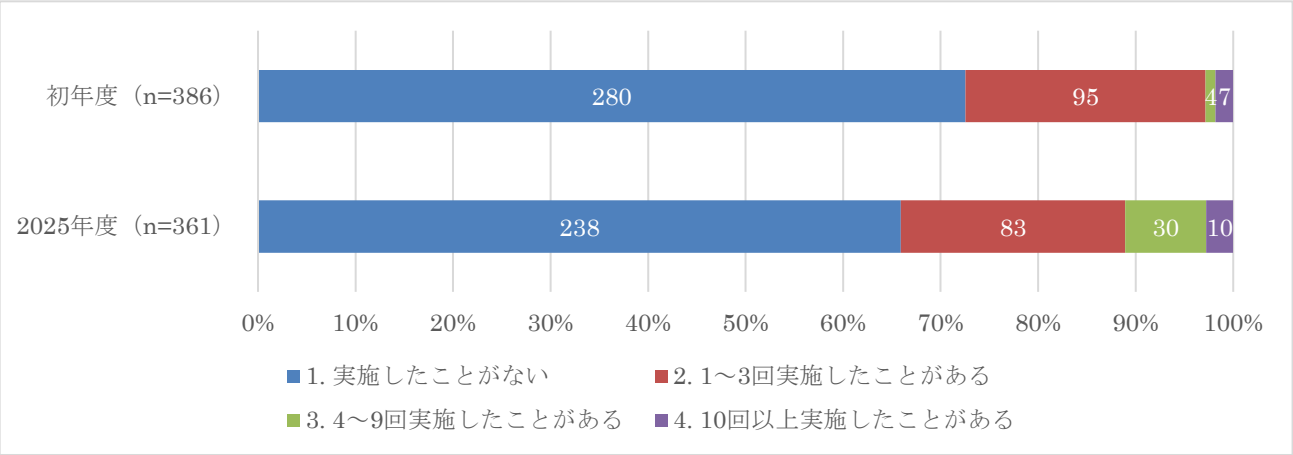
カイ二乗検定，p=0.13

海外の教育支援のボランティア活動



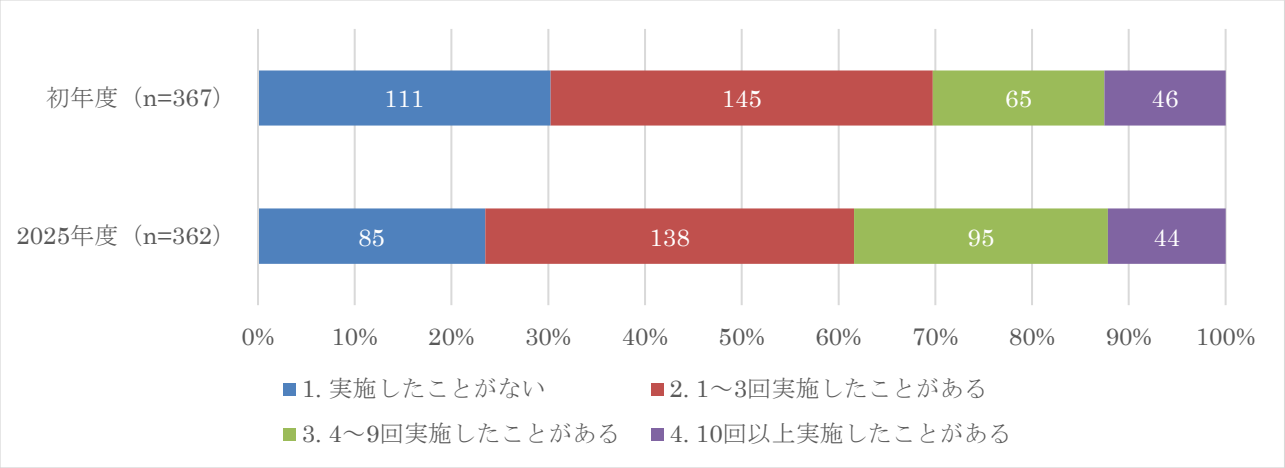
カイ二乗検定，p=0.13

食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加



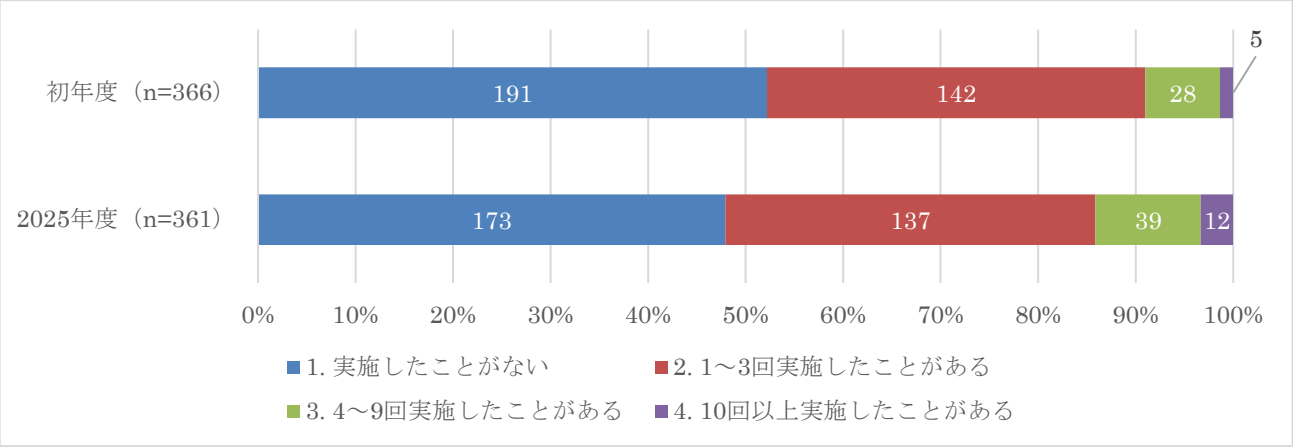
カイ二乗検定，p<0.001

募金活動への協力（例：教育、紛争、災害、福祉など）



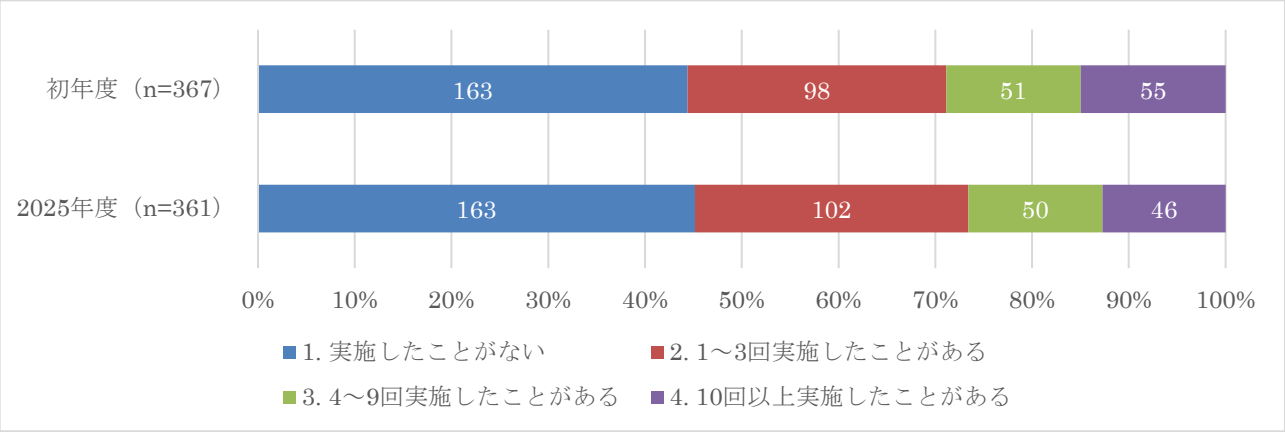
カイ二乗検定，p=0.03

使わなくなった学校用具の寄付（国内/海外問わず）（例：ランドセル等）



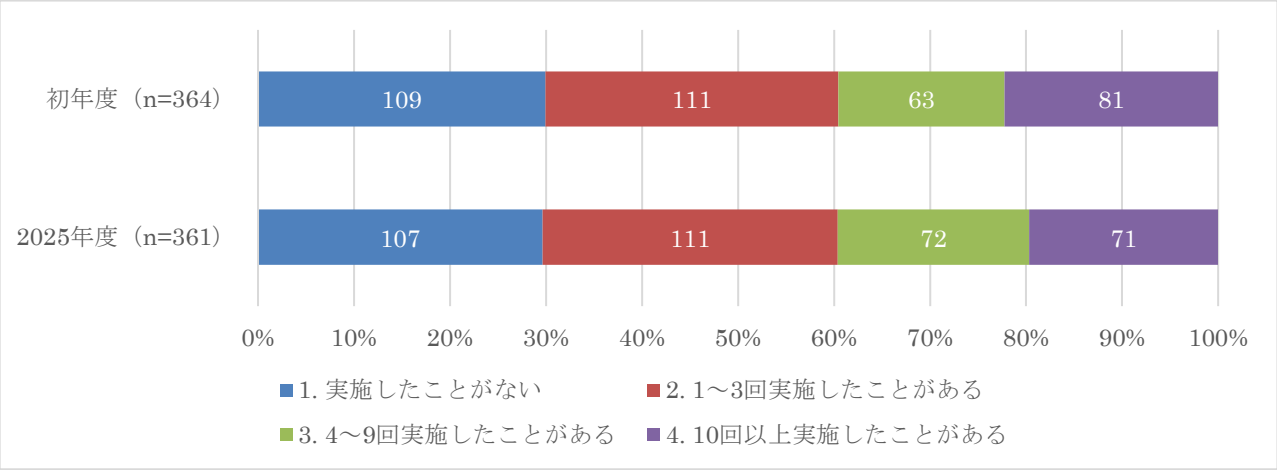
カイ二乗検定，p=0.13

日本や世界の教育問題について他者との意見交換



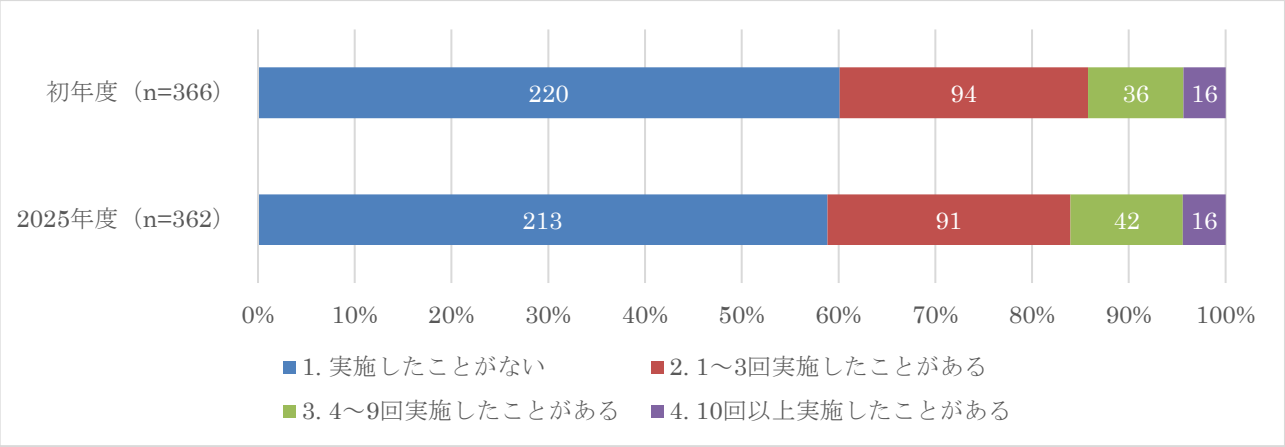
カイ二乗検定，p=0.84

教育に関する話題について、主体的な情報収集（新聞やニュースから）



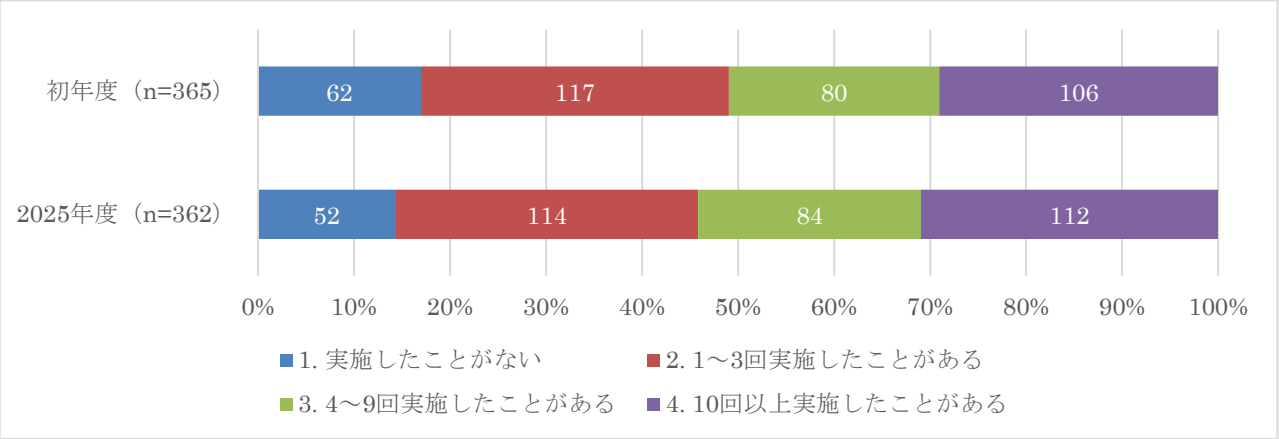
カイ二乗検定，p=0.74

SDGs に関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加



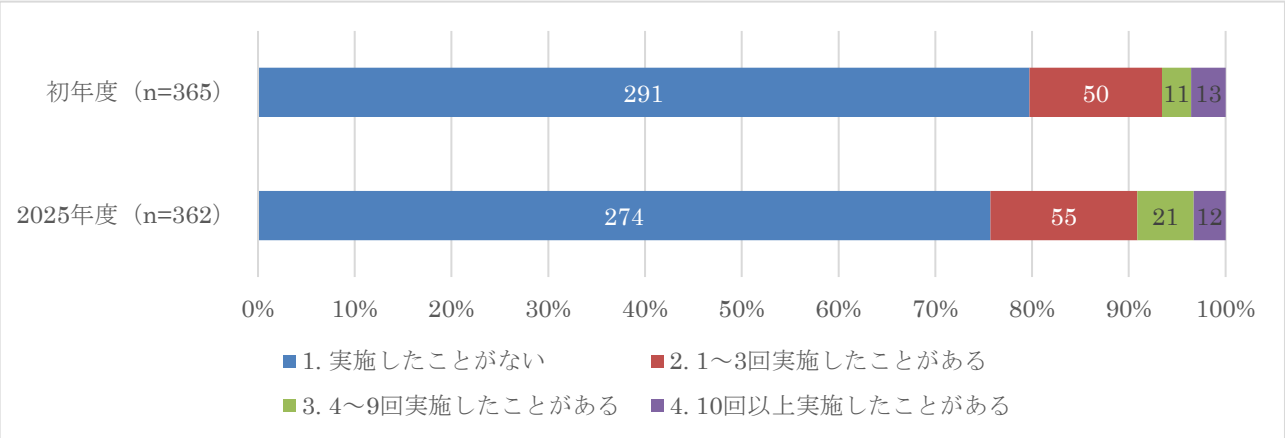
カイ二乗検定，p=0.90

防災に関わる体験学習やイベントへの参加（例：避難訓練）



カイ二乗検定，p=0.76

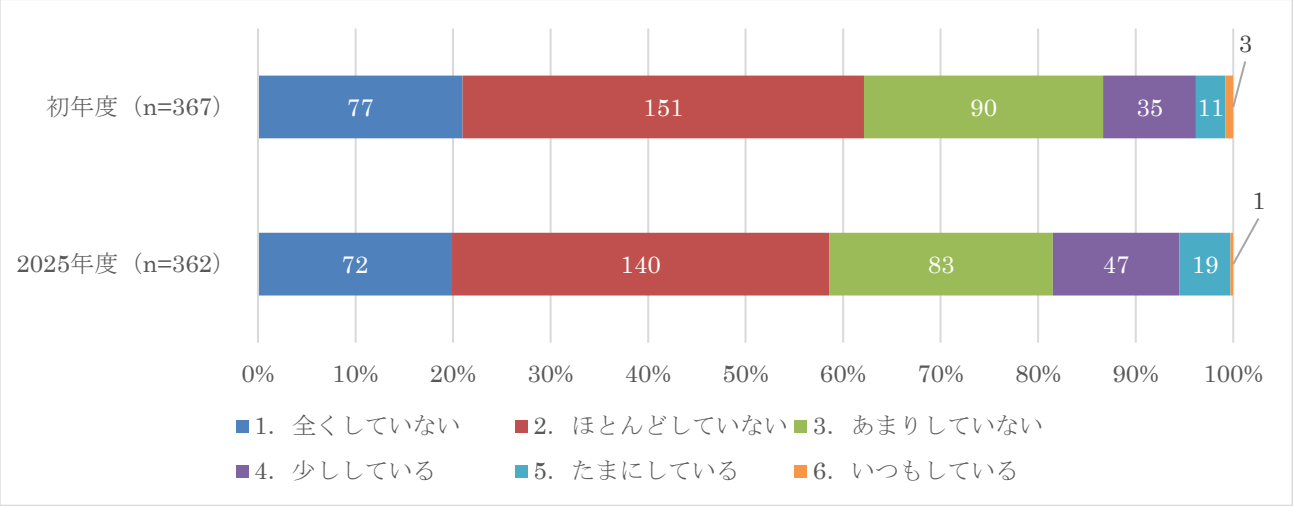
いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援



カイ二乗検定，p=0.27

⑤ジェンダーに関する発言

あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。（例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等）

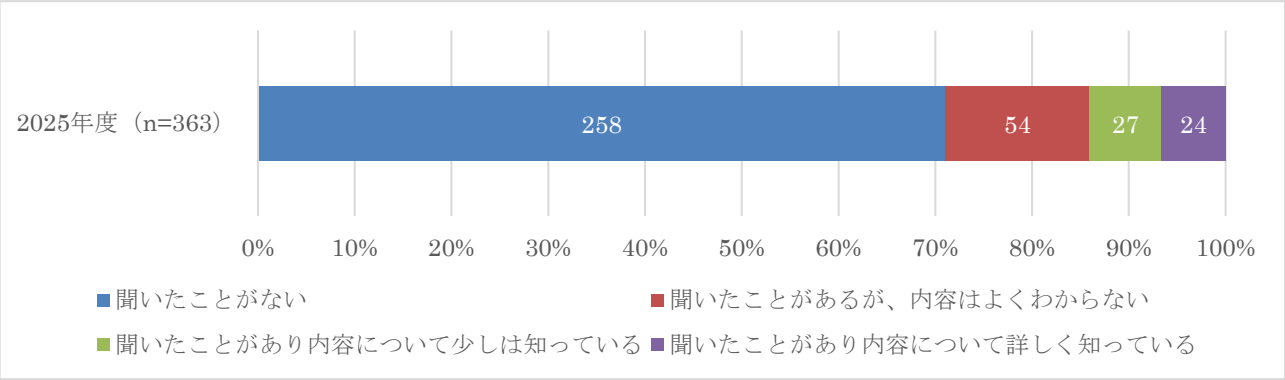


カイ二乗検定，p=0.33

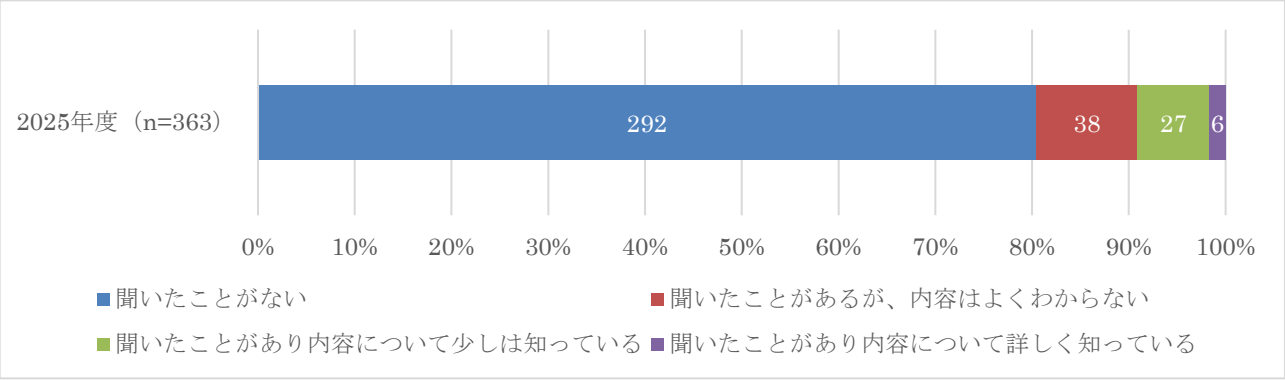
（６）お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の方針や活動について

あなたは、お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の方針や活動に関する以下のキーワードについて知っていますか。もっとも当てはまるもの一つをそれぞれ選択してください。

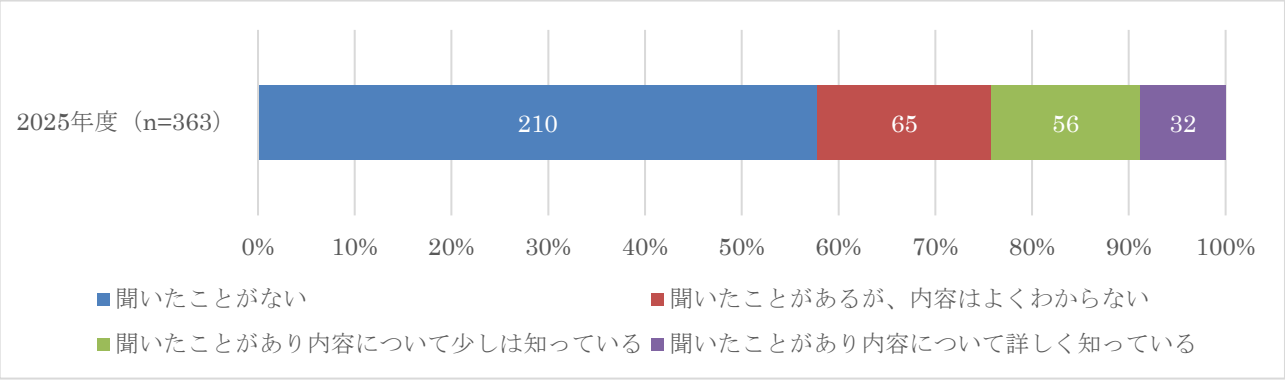
研究所の SDGs 推進活動のキーワードが「生活者起点」であること



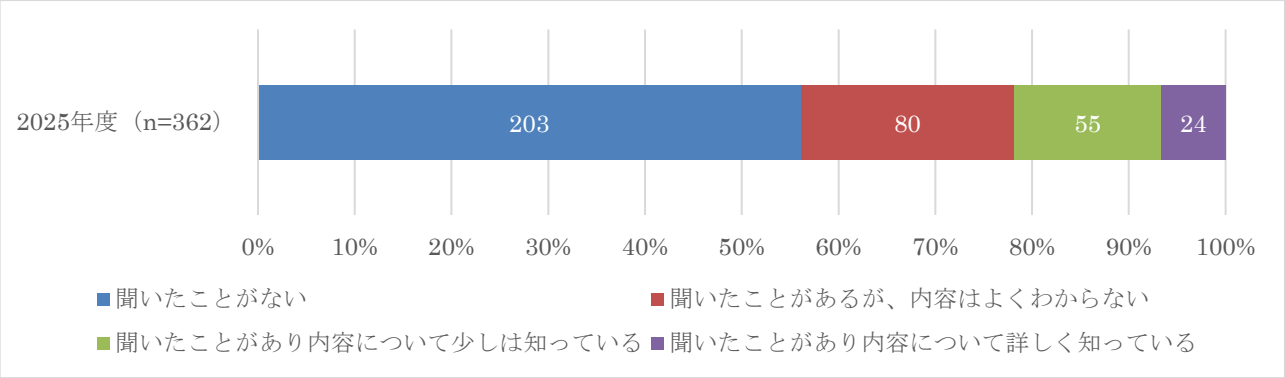
THE インパクトランキングにエントリーしていること



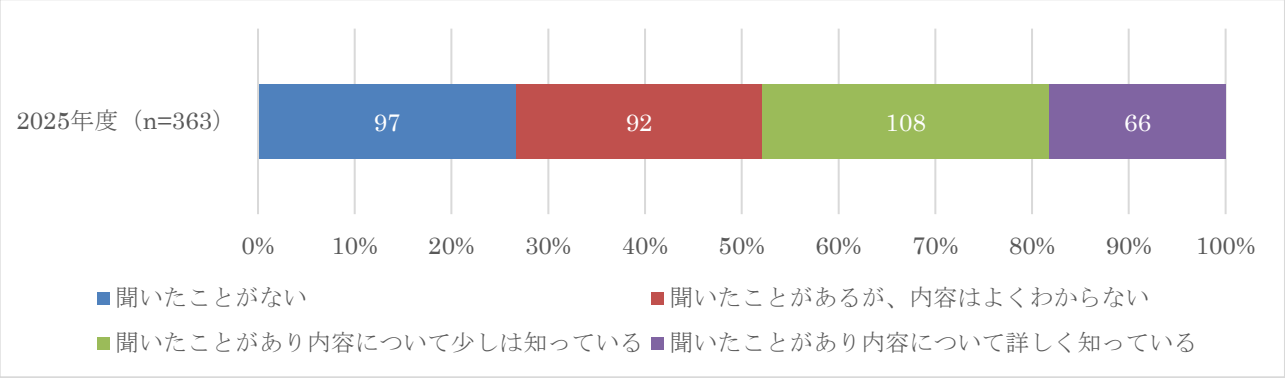
研究所が附属学校園と連携してフードドライブを行っていること



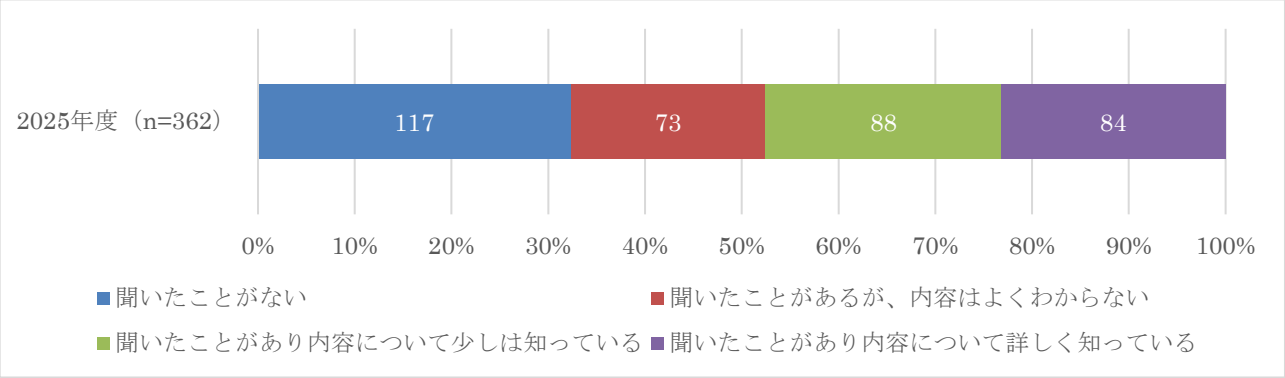
研究所が学内の教員に対し SDGs 研究助成を行っていること



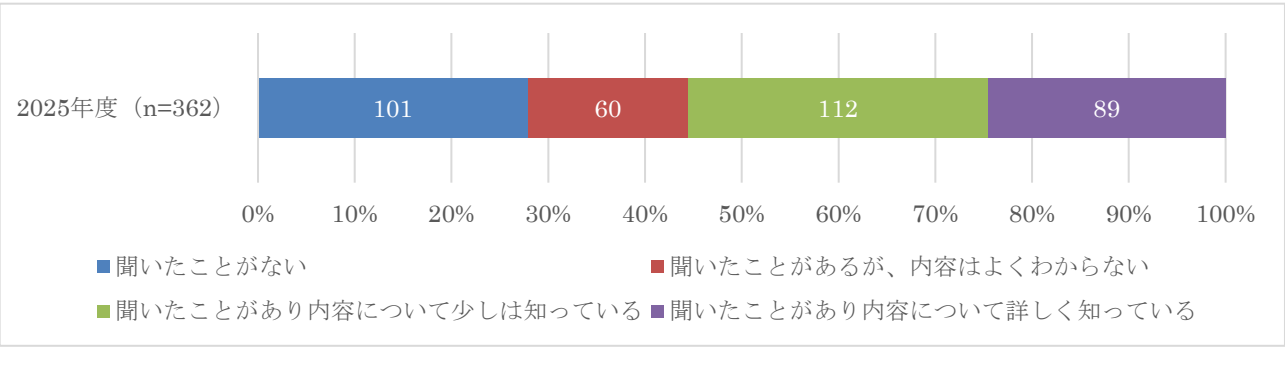
研究所に学生委員会（OCHA-SDGs 学生委員会）があること



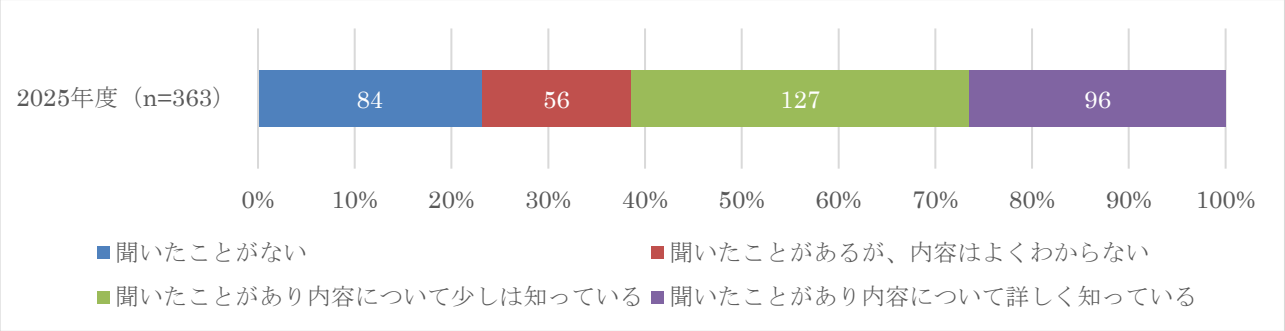
OCHA-SDGs 学生委員会がおゆずりフェスを開催したこと



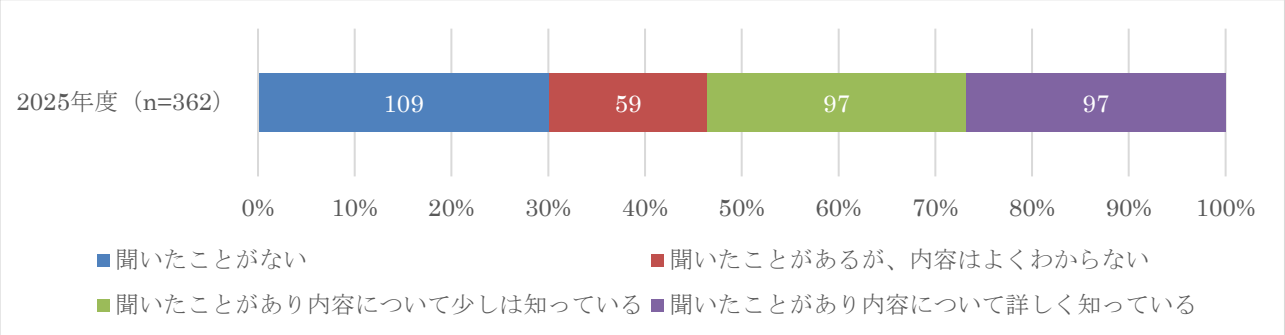
OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂とプラントベースフードメニューを共同開発したこと



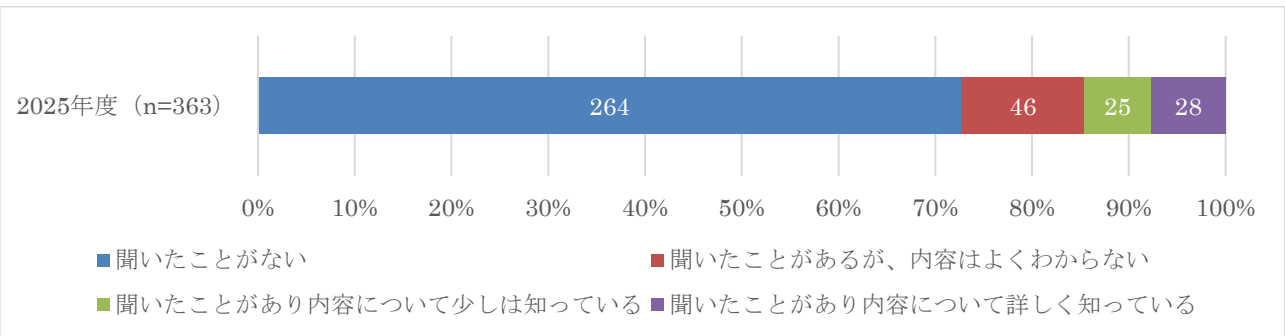
OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂と協働して食品ロス削減のための OchaEco 弁当の販売を実現させたこと



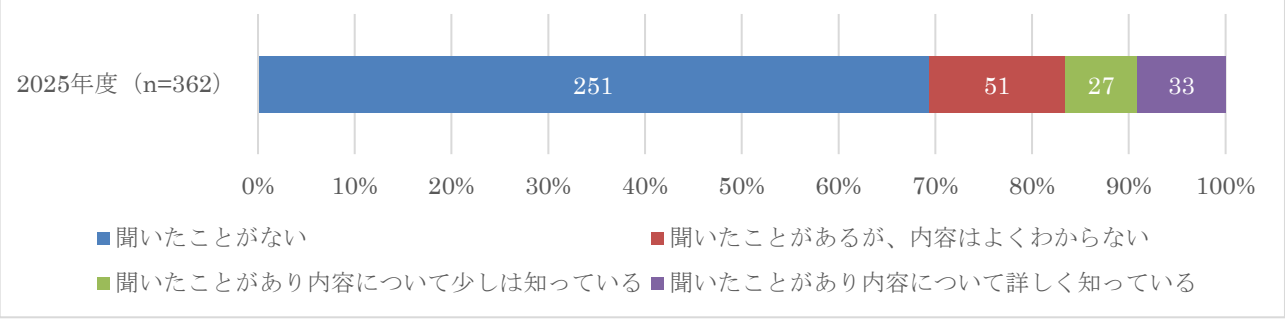
OCHA-SDGs 学生委員会が生協でのウォーターサーバー利用パスをデザインしたこと



研究所がサスティナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること



研究所が地域や企業とサスティナビリティに関する連携を行っていること



（7）SDGs に関してお茶大に求めること（抜粋）

あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

●SDGs に関する知識を得る機会

・SDGs のそれぞれの番号について考える授業などが欲しい。
・SDGs についての授業を豊富にして欲しいです。
・SDGs 関連の講義をもっと宣伝してほしい。
・授業などでもっと取り扱って欲しい。
・SDGs の活動を授業で行う。
・学内委員会についてのお話以外で、SDGs についてのお話を耳にする機会が少ないと感じています。授業で少し触れるなどすると、もっと良いのではないでしょうか。
・ジェンダー関連の授業をもう少し増やしてほしいです。
・項目によってはあまり内容を深く知らないことも多いので、生活や学習の内容を SDGs に結びつけやすくするサポートなどがあれば嬉しいです。

●教育・生活環境の充実

・ゴミの分別が行き届いてないところがある。
・分別表記があいまいなゴミ箱があったので分かりやすくしてほしい。プラスチックが燃えるごみ・燃えないごみの両方についている。
・ごみの分別をもっと分かりやすく表示するといいと思います。
・ペットボトルやキャップを回収する専用のボックスの設置。
・コンタクトレンズのケースやペットボトルキャップ、牛乳パックの回収。
・プリント制度の廃止。
・教科書など中古品の販売。
・教科書の先輩から後輩への譲り活動。
・古本などの譲り合い会の実施。
・マイボトルが普及しやすいように生協会員ならウォーターサーバーを使えるなど対象者を増やしたり利用難易度を下げたりして欲しい。学内にもっと増やして欲しい。
・野菜がたくさん取れるメニューを開発すること、期間限定ではなくて常にオーダーできるもの。
・学食でプラントベースのメニューを提供。
・SDGs メニューを食堂でいつも食べられるようにしてほしい。
・学食メニューにプラントベースを増やす。
・学食のプラントベースのかぼちゃスープは個人的に美味しかったので、また出してほしいです。
・ヴィーガンメニューの導入。
・学食でもっとエコフードを出して欲しい。
・OchaEco 弁当など、SDGs 的にも学生側にもメリットがある活動。
・夜ご飯の持ち帰りを自分の弁当箱でもできるようにしてほしい。
・学食で余りそうなものを詰めて弁当にして夕方に売ってほしい。
・ウォーターサーバーを無料にして欲しいです。夜の学食のフードロスもどうにかして欲しいです。

・購買で賞味期限が近いものを安く売っているが、その頻度や品数を増やしてほしい。需要はあると思うから、フードロス削減につながると考える。
・フードロスをさらになくす。
・無駄を減らすこと。
・学食をもっと安く食べられること。
・大学内の取り組み（食堂、生協でのフードロス対策）と大学外での提携。
・プラスチックのスプーンやフォークをなくす。
・食堂で使い捨ての食器を使わないこと。
・生協で、はしやスプーンの持参にポイントをつける。
・ウォーターサーバーの設置拡大・無料化（複数回答あり）。
・ウォーターサーバー期間の延長。
・ウォーターサーバーもっと使いやすいところに置いて欲しい。食堂は時間が決められている。
・ウォーターサーバーが食堂外にあると土日や時間に関係なく使用できると思う。
・ウォーターサーバーの量と場所をもっと増やしてほしい。エコなのに場所が悪すぎて、もっと近くにたくさんある自販機で猛暑の日は買ってしまうことが多く意味がない。
・フェアトレード食品を普段あまり目にすることがないため、購入する機会があったら嬉しいです。
・リサイクル、バリアフリー、電力使用の削減。
・バリアフリー。
・冷房のかけすぎをやめてほしい。
・エアコンの効きがまばら。
・図書館の冷房の設定温度を下げると良いのではないかと思う。
・電気代を抑えて欲しい。
・トイレなどをきれいに掃除して欲しい。
・トイレを整備し、一回で十分に水を流せるようにしたい。何回も流そうとすると、水の無駄になってしまうため。
・授業で使うホワイトボードのペンがいつも乾いていて頻繁に捨てて新しいのを開けているのが気になる。
・SDGs の健康に関わっているかわからないですが、検尿の提出を生理期間に配慮したものにして欲しいです。
・健康診断をもっとしてもいいと思う。
・学生が幸せに楽しく学び過ごせること。
・学生が行動変容しそれを継続できるように、学内での生活の至るところで SDGs への配慮を感じられたらいいなと思っています。
・SDGs を通して学生に利益を与えること。
・SDGs の取り組みを継続して、お茶大生の意識を高める。
・実りある教育。

●イベント等の開催
・誰もが気軽に参加できるイベント。
・フェアトレードについてやってほしい。
・自分の力だけでは協力できない、外国の貧困や学習状況の改善に関われるイベントを行って欲しいです。
・企業を招いて取り組みを紹介してもらうこと。
・フードドライブとおゆずりフェスはとても良い取り組みでありこれからも続けて欲しい。
・おゆずりフェスは図書館の入り口のところにボックスがあったので知ることができましたが、自分で見つけなければ知らなかったのでもう少し宣伝をすると目につきやすいかなと思いました。
・学内でのおゆずりフェスの強化（常態化）。
・今後も、フードドライブやおゆずりフェスなどを、継続して実施してくれること。
・生活者起点ということを活かし、「SDGs に特に関心を持っていない人」も魅力を感じるイベントを企画し、そんな人が SDGs に興味を持つきっかけとなっていただけるとありがたいです。
・オンラインで参加できるセミナーやイベントがあれば参加したい。
・SDGs に関するイベントの情報をもっと発信してほしい。

●学生主体の取り組み
・SDGs 学生委員のメンバーらの努力によってウォーターサーバーの設置が実現したことを広めること(自らの手で環境を変えられることを知ってほしい)。
・SDGs と言わなくても当たり前に SDGs の達成につながる行動ができること。
・学生同士で意見交換を行う。

●個々の目標達成に向けた取り組み
・お茶大はやはりジェンダーに関する研究が強いと思うので、ジェンダーの取り組みを先導してほしい。
・教職員へのジェンダーに関する教育。女子大であることが女性の権利やキャリアに関する教育に寄与してきたことは十分理解するが、女性だから、と語られる場面が多く先生方のなかにジェンダーバイアスがあることを感じる。
・女子大として、ジェンダー平等に関する教育を強化すること。(既に尽力されていることと思います)
・SDGs ではジェンダー問題が挙げられている。お茶大は女子のみが入れる大学であり、性別によって人を判別しているシステムのように見える。お茶大は日本の女子校、男子校に対してどのように考えているのか、どのような価値があるのかをもっと発信してほしい。
・とにかくジェンダーの平等を求めます。お茶大には女性しかいないとはいえ、まだまだ平等は遠いと感じます。
・まだ入ったばかりで何をしているか知りませんが、女子大だからこそ性別への垣根を超えた思考の機会は重要であると感じます。
・ジェンダーを、女性優位にならず率先して平等に努めること。
・ジェンダー平等。
・ジェンダー問題。

・女子大学としてジェンダー差別をなくしてほしい。
・女性リーダーの育成。
・女性の社会進出・活躍の支援。
・女子大ならではの視点。
・女子大ならではの活動。ジェンダー平等に向けての活動。
・SDGs の 17 の目標のうち、興味のある目標ごとにグループで集まり、ディスカッションする。
・女性社会における男性への配慮の必要性をもっと広めるべきだと思います。
・トランスジェンダー学生の受け入れに対して慎重になって欲しい。
・SDGs の中でもジェンダーや働き方などに焦点が当てられがちであるが、ほかのトピックについても同様レベルの授業や取り組みを行ってほしい。
・アファーマティブアクション。
・栄養を学ぶことで貧困を無くすこと。
・世界に教育を拡充する。

●身近でできる行動や、大学全体での取り組み
・資料として色の認識が必要な講義ならまだしも、パワーポイントのデザインとして不必要にカラフルな資料のカラーコピーが多いので、PDF 等のデータでの配布にしたり、極力白黒コピーにするなどしたら良いと思う。
・国立大学ということで政治的立場が関連することもあるかもしれないが、大学である以上研究機関と教育機関として、大学全体で積極的に取り組んでほしい。
・もっと研究所の活動を評価し、予算を出すこと。SDGs の掲げる 2030 年が近づいており、また国際連合及び SDGs の限界も明らかになってきた今、官民学の連携にとどまらず、「生活者起点」を第一にして国際問題や環境問題に取り組む組織があることは、お茶大にとっても重要なことだと思う。

●SDGs 達成に向けて行動する機会
・参加しやすい活動。
・参加しやすい敷居の低さ。
・大学院博士後期の居場所づくり。
・学生が取り組みやすい行動について広めること。
・誰もがやりやすいやり方を示すこと。
・簡単にできる取り組みを紹介してほしい。
・気軽に取り組めることの周知。
・協力したいと思っていても、あまり協力の仕方がわからないことがよくあるので、具体的に協力の仕方を示してほしい。
・私達も身近に協力出来る取り組みがあれば、もっとアナウンスして欲しい。
・私たちにできること、参加できるイベント活動を広く周知すること。
・学生が参加しやすいボランティアをもっと紹介して欲しい。
・学生が気軽に参加できるようなボランティア活動を実施して欲しい。

・ボランティア活動の紹介や斡旋をしてほしい。
・知識やボランティアの機会を提供してほしい。
・小中高のように、門の前で募金活動などがあると良いのではないかと少し思いました。
・気軽に SDGs に取り組むことができるような方法や実践方法の提供。
・SDGs 学生委員会に入っていない学生であっても SDGs に協力できていると実感できる機会がさらに提供されること。
・委員だけでなく参加できるボランティアのような実戦の場を作って欲しいです！
・SDGs に所属していない学生も参加できるようにすること。
・学生と連携した取り組みの継続。
・お茶大内にとどまらず、他大や企業との連携など広がる活動をして欲しい。
・一人ひとりができる具体的な取り組み例が色々なところで示されていると、行動しやすくなって嬉しいです。
・大変申し訳ないですが活動していること全然知らなかったです。もっと知りたいです！
・私の意識の低さが最も大きな原因ですが、私と同じようにお茶大の SDGs に関する活動を知らないという人も少なからずいるのではないかと思うので、興味を抱いていなかった人が SDGs に関心をもてるような機会や、詳しく知らない人でも参加できるような活動をしていただけたら、より多くの人が SDGs の活動に積極的になれるのではないかと思います。
・外部から院に進学したので、お茶大が SDGs に関して行っていることを知らなかったため、大々的にアピールしてほしいと思った。（入学時のパンフレットやメールを介してなど）
・ボランティア活動などにはなかなか参加する機会がありませんが、エネルギー問題の解決に関連するような研究を行っているので、SDGs 研究助成の取り組みはたいへんありがたいです。

●研究の推進・成果発信
・SDGs という言葉のインパクトは大きいものの、意味を理解している人は少ないと考えられるので、これからも情報発信をして欲しい。
・いろいろな取り組みをしているということをもっと大々的に報告する。
・SDGs への取り組みは十全だが、学生に取り組みの実態が広まっていないため、さらなる広報活動が必要であると思う。
・自分の日常の些細な行動が地球規模で影響を及ぼす可能性が大いにあることを周知し、そのことを自覚する人を増やすこと。
・日常的に SDGs を意識して生活できるよう、至る所に環境啓発のポスターやステッカーを施し、視覚的に学生に意識を持たせるのが有効だと思う。お茶大では問題意識が高い学生が多いにも関わらず、授業内でしか SDGs を取り扱って議論する場がないため、もっとフラットに門戸を広く開いた状態で意見交換する場があればいいなと思う。
・研究内容をまとめたものを公開してほしい。
・見やすいポスター。
・ポスターなどの掲示。
・なにか活動をしているのなら、周知して欲しい。

・お茶大が行っている活動について全然知らないので、もっと情報発信に力を入れて欲しい。
・研究棟でどんなことをしているのか知りたい。
・SDGs の取り組みをもっと知らせる。
・SDGs について周知すること。
・広報活動（複数回答あり）。
・SDGs についての知見を世間に広めること。
・様々な方面で活動を展開しており大変素晴らしい取り組みだと思うが、これが一過性の単なるパフォーマンスで終わるのではないかと危惧している。本当に当事者や世界が抱える問題を解決できているのか、本当に誰か（たとえそれが地球上でたった一人でも）の幸福に寄与しているのかを常に問い続けてほしい。
・SDGs を偽善とする説に対する体系的・論理的な反論または実践（事例）をすることです。

●SDGs 実践に対する負担感
・ジェンダーに対する考え方を押しつけないこと。また、ジェンダーについて考えることを強要しないこと。

教職員編

2-1　教職員と SDGs（結果の概要）

p. 39-40
大学教職員のSDGs認知度は横ばい、関心度は低下

p. 39-40
附属教職員のSDGs認知度は100.0%、関心度は92.6%

p. 41-50
大学教職員のSDGs達成の参画意識は
研究50.0%、教育53.7%、その他業務41.8%

p. 41-50
附属教職員のSDGs達成の参画意識は
研究47.6%、教育76.9%、その他業務55.6%

p. 51
年代が高いほど、研究を通じてSDGsに参画

p. 54-55
SDGs推進研究所の活動のうち、大学教職員の認知度が最も高かったのは研究所主催イベントの開催

p. 54-55
OCHA-SDGs学生委員会の認知度は75.5%
（2023年度から増加）

2-2　調査の概要

（１）目的

本学で SDGs をより強力に推進するための基礎資料とするため、教職員の SDGs 認知度及び参画意識を調査すること。また、上記について 2023 年度調査からの推移を示すこと。

（２）方法

【調査実施時期】

2025 年 12 月 5 日～2026 年 1 月 13 日

【対象者と手続き】

対象者：お茶の水女子大学の教職員等

大学教職員－常勤・非常勤職員（任期の有無を問わない）

附属学校園－常勤職員のみ（任期の有無を問わない）

手続き：10 分程度の回答時間を想定し、質問票を作成した。教職員向けメーリングリスト（kyoin-all 及び shokuin-all）を用いて対象者をリクルートした。メールに記載された URL から対象者を調査票に誘導し、Forms を用いたオンライン調査を行った。附属幼稚園及びこども園、いずみナーサリーには、紙媒体の調査票も併用した。

【調査項目】

質問項目リスト参照

質問項目リスト

No.	テーマ	教示（一部省略）	選択肢	質問数
1	SDGs 認知度	あなたは、SDGs について知っていますか。	1：SDGs について聞いたことがない～5：17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている	1
2	SDGs への関心	あなたは、SDGs についてどの程度関心がありますか。	1：全く関心がない～6：非常に関心がある	1
3	参画意識に関する質問－研究	あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 6 へ。	1
4		研究を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 3 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
5		今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 3 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
6	参画意識に関する質問－教育	あなたは現在、本学学生への教育を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 9 へ。	1
7		本学学生への教育を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 6 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
8		今後、本学学生への教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 6 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
9	参画意識に関する質問－研究・教育以外	あなたは現在、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している	1
10		ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 9 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
11		今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式	1
12	本研究所の活動	あなたは、以下の SDGs 推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。	1：聞いたことがない～4：聞いたことがあり、内容について詳しく知っている	13
13	本学の SDGs 活動に関する自由意見	本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。	自由記述式	1
14～17	属性	性別/年齢/主なご所属先を教えてください。		4
			合計	29

2-3　調査結果

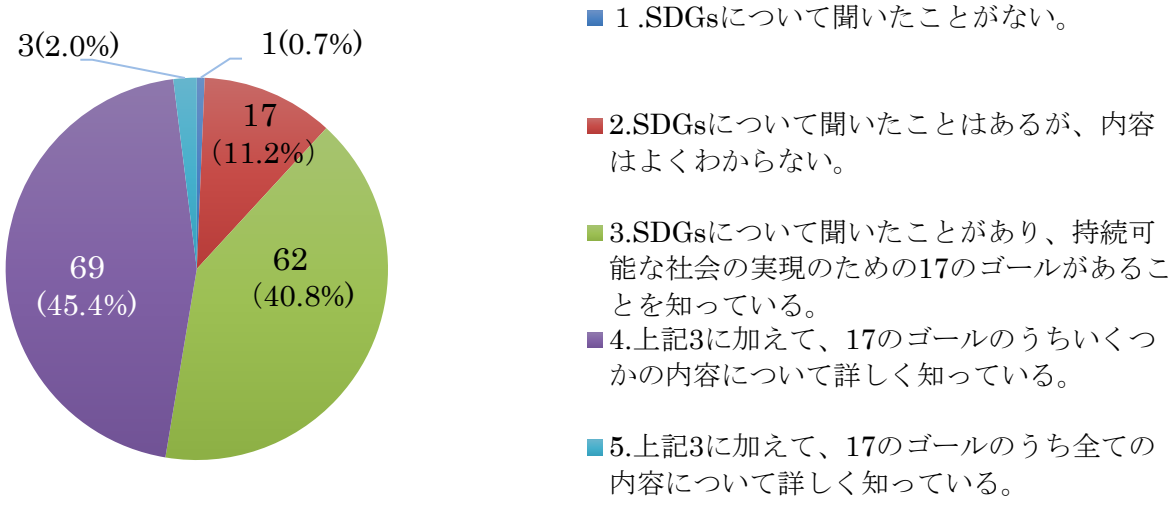
（1）対象者の特徴

性別（人）	
男性	36
女性	83
回答なし	6
所属先－大学（人）	
文教育学部	13
理学部	16
生活科学部	6
共創工学部	3
センター・研究所	24
事務系職	30
その他	2
回答なし	4
所属先－附属学校園（人）	
いずみナーサリー	3
こども園	13
幼稚園	4
小学校	2
中学校	3
高等学校	2
年齢（人）	
18-29 歳	10
30-39 歳	16
40-49 歳	43
50-59 歳	36
60 歳以上	15
回答なし	5

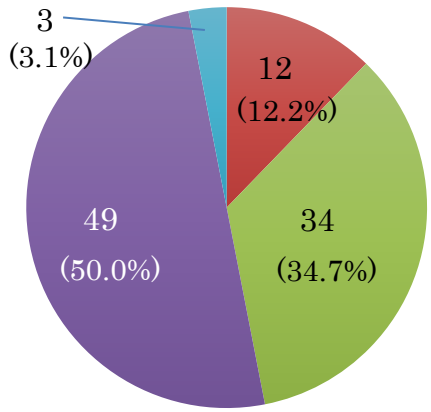
（２）SDGs 認知度

あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

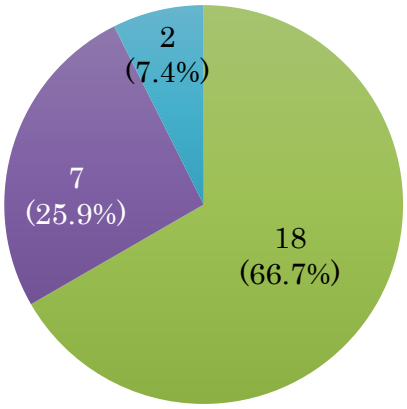
2023 年度　大学*1（2023 年度は大学教職員のみを対象として調査を実施した）



2025 年度　大学



2025 年度　附属学校園



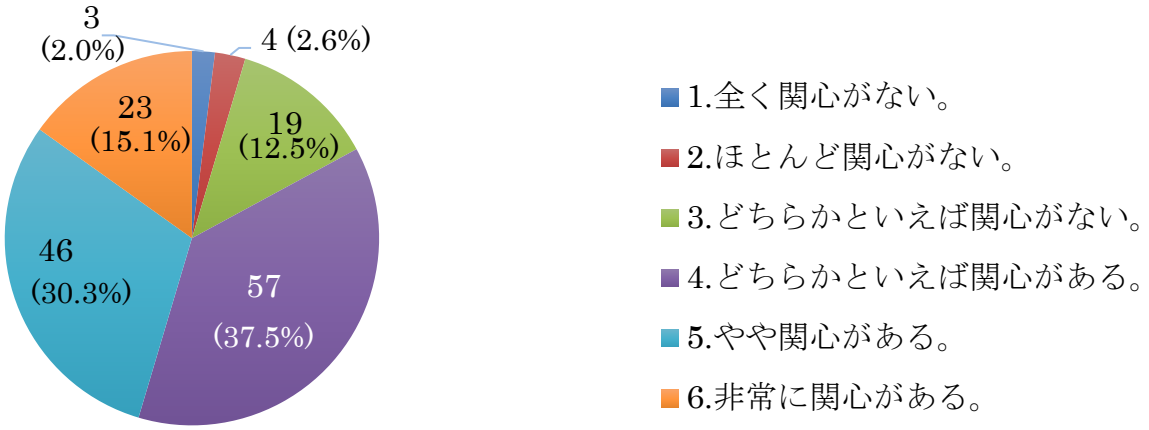
*1 数値は小数点第 2 位で四捨五入しているため、表示値は実際の測定値とわずかに異なる場合があります。

SDGs 認知度（上記項目で 3～5 と回答した者の割合）は、
大学 87.8%、附属学校園 100.0%であった。
大学教職員の認知度は、2023 年度（88.2%）と同程度であった。

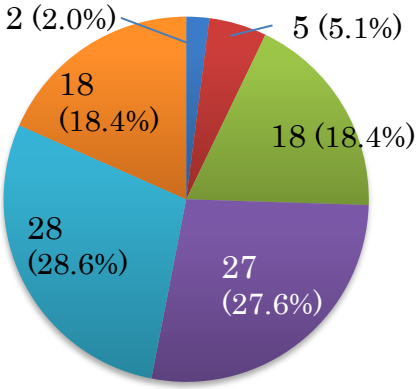
（３）SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。

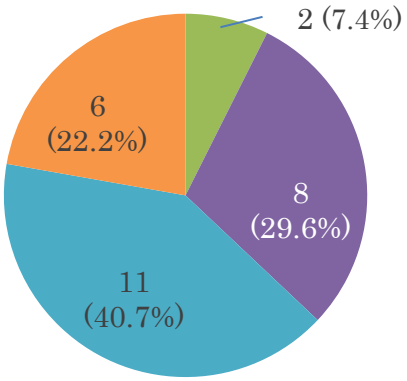
2023 年度　大学（2023 年度は大学教職員のみを対象として調査を実施した）



2025 年度　大学



2025 年度　附属学校園



*1*2 数値は小数点第 2 位で四捨五入しているため、表示値は実際の測定値とわずかに異なる場合があります。

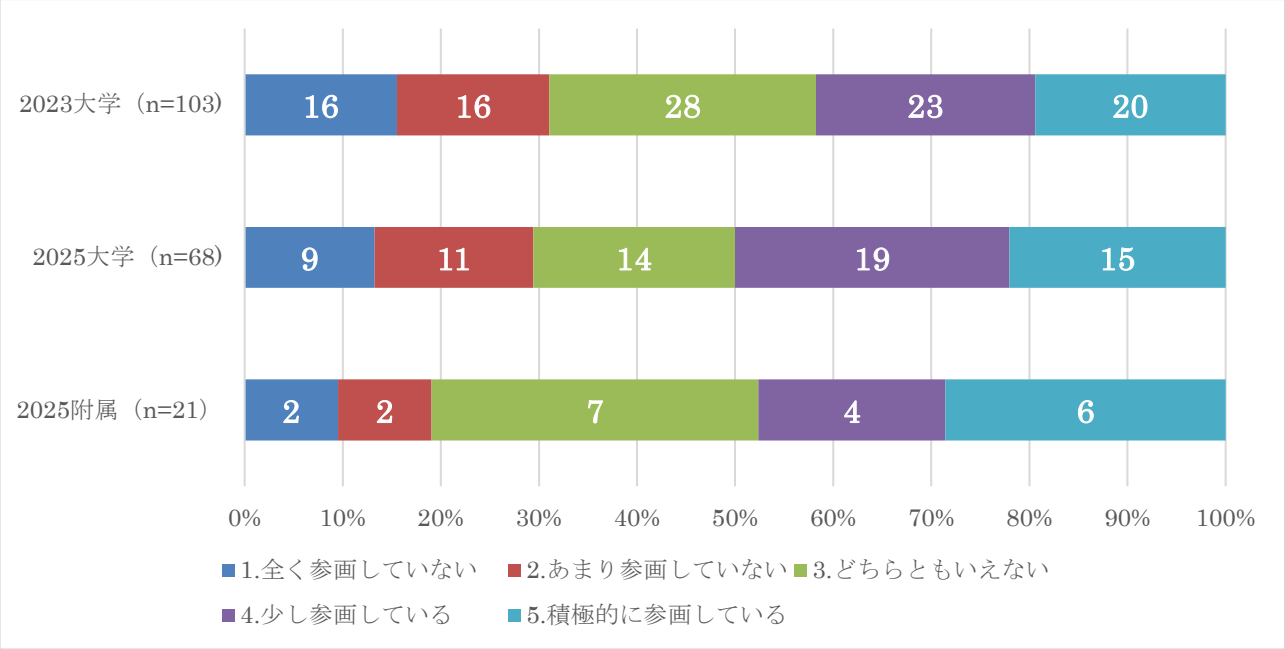
SDG 関心度（上記項目で 4～6 と回答した者の割合）は、
大学 74.5%、附属学校園 92.6%であった。
大学教職員の関心度は、2023 年度（82.9%）より低下した。

（4）SDGs 推進活動に対する参画意識

① 研究

現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGs 達成に参画していますか。

（業務に研究が含まれていると回答した者のみ）



p=0.53, Kruskal-Wallis 検定

研究を通じて SDGs 達成に参画している者の割合は、
大学 50.0%、附属学校園 47.6%であった。
大学教職員の研究を通じた SDGs 参画意識は、有意差はみられなかったものの、2023 年度（41.7%）より増加傾向にあった。

研究を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。（自由記述・抜粋）

〇特定の目標や分野についての研究を行っている

・社会の不平等、民族的・言語的マイノリティに関する問題を扱った研究を行っている。

・ジェンダー平等の実現に貢献しうる研究を行なっている。

・健康やウェルビーングに運動が及ぼす影響の研究

・生物多様性保全（陸、海）に関する研究

・健康維持増進に向けた食生活の研究、食品ロスや調理過程での温室効果ガス削減の研究

・持続可能な食生活を研究テーマとしている。

〇具体的な参画例

（個人を特定する可能性があるため非公開とする。）

〇その他

・SDGs 研究所から助成金をいただき、報告会で発表した。

・ポスト SDG 指標に関する研究に携わっていた。授業で SDGs を詳しく教えている

今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。（自由記述・抜粋）

〇社会の風潮

・社会の受容性

・世の SDGs 疲れを感じます。SDGs が溢れすぎて、アンケートの協力やインタビューの依頼についてやや後ろ向きな態度を取られることがあります。

・SDGs に絡めないとプロジェクトが認められない、など

〇自身の研究内容との関連付けの難しさ

・言語の研究であるため

・基礎研究であり、達成に直接関与する内容がほとんどない

・自分の研究が SDGs に役に立つとは思えない。

・研究分野が SDGs と関連を持ちようがないため

〇時間や資金・人的資源などのリソース確保の難しさ

・研究予算

・研究費

・研究自体は SDGs に関連すると思うが、それを社会活動につなげる時間的余裕がない。

・研究を進めることにともない少なからず物資を必要とすること

・時間の余裕がないかもです

・研究時間の少なさ

・予算の不足

・研究費の助成や社会・大学・公的機関などの連携先の選定など
・研究費の不足と研究時間の不足
・多忙で研究時間がないこと
・安定して研究を続けられるポスト

〇大学の体制
・今後も多様な形で参画していければと思います。研究を進める上では、前任校と比べて形式的な手続きが圧倒的に多く、私個人としては障壁を感じています。

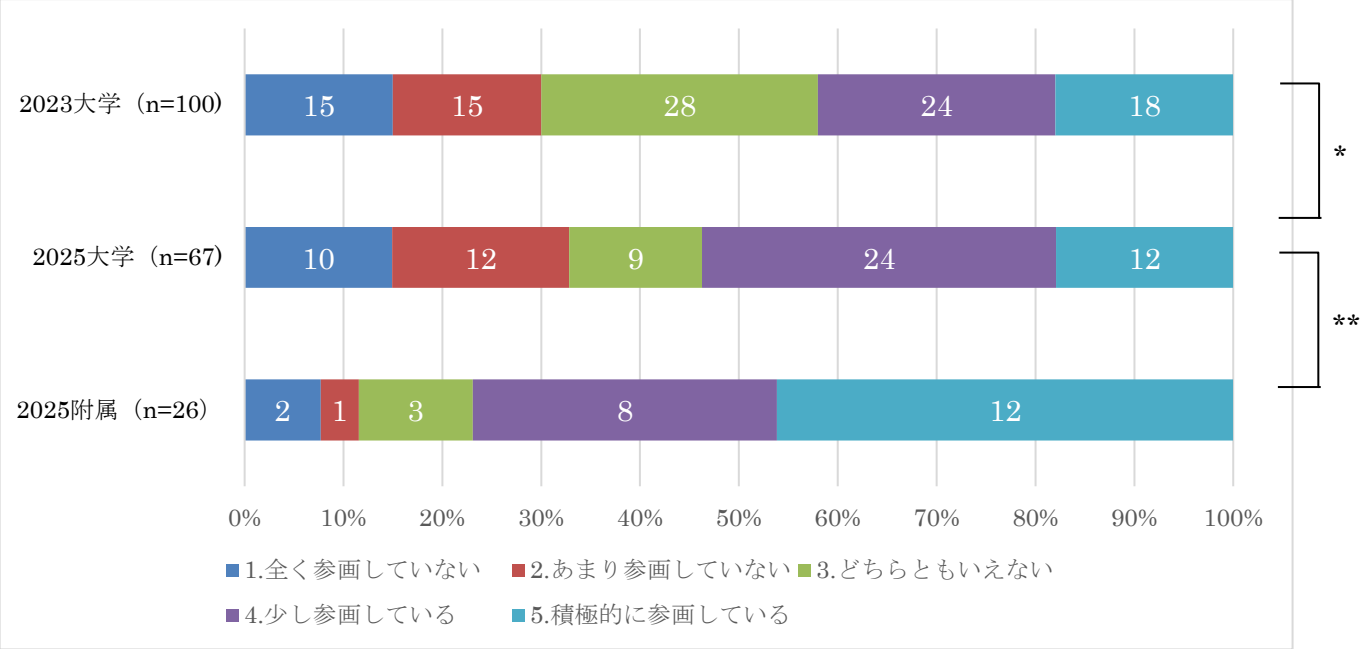
〇SDGs に対する価値観
・SDGs の中には欺瞞も含まれており、先進国では、手放しに参画することなどあり得ません。むしろ批判的検討の対象です。
・原理的な正当性に関する疑問
・「なにか具体的なボランティア活動をしなければ SDGs に貢献していない」といったような思い込みやそれを強制する活動が散見され、それらは SDGs の概念に含まれず SDGs の達成の障壁となりうる
・基準はあるものの、個人によるものがあるので共通理解を深めていくこと。

〇その他の具体的な困難要因
・体調
・紙媒体による情報の共有
・社会的な慣習
・ジェンダー規範などの旧体制的な考えや周囲のふるまい
・地球環境の研究は、アウトカムの設定が難しい。
・SDGs に触れる機会が少ないこと

② 教育

あなたは現在、本学学生や子ども、児童・生徒への教育を通じて、SDGs 達成に参画していますか。

（業務に教育が含まれていると回答した者のみ）



p=0.005, Kruskal-Wallis 検定　*p<0.05, **p<0.01

教育を通じて SDGs 達成に参画している者の割合は、
大学 53.7%、附属学校園 76.9%であり、附属学校園が有意に高かった。
大学教職員の研究を通じた SDGs 参画意識は、有意差はみられなかったものの、2023 年度（42.0%）より増加傾向にあった。

教育を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。（自由記述・抜粋）

〇授業等による参画促進

・社会問題に関するトピックの読み書きやディスカッションを行っている。
・授業で SDGs をテーマにした活動（調べ学習、発表、ポスター作成など）を実施。
・ワークシートに設問を入れ、学生に自分にできることを考えさせている。
・授業および研究指導において、特に目標 7（エネルギー問題）について詳しく説明。
・キャリア教育を通じて、世界のために何ができるかを考え行動する力を育成。
・留学生交流会などで海外の学生と共に考える機会を設けている。
・講義でジェンダー平等について教授している。
・計算量の授業を通じ、計算資源削減＝エネルギー節約の観点を扱っている。
・SDGs の考え方を基盤にキャリア教育科目を実践。
・生物多様性教育、生態学・保全生物学の授業。
・SDGs トピックを扱い、ディスカッション・リサーチ・プレゼンを実施。
・複数授業で SDGs を扱い、セミナーも開講。
・関連があれば授業内で SDGs に触れている。
・身近な自然との関わりや相互尊重を育む教育。
・授業で SDGs を扱い、レポート課題として参画方法を考えさせている。
・保育・教育現場の観察研究を通じた環境教育の講義。
・理系分野のジェンダーギャップ解消に関する教育。
・教育寮で「おゆずりフェス」開催をサポート。
・昆虫食講義。
・ジェンダー平等に関する授業。
・授業で取り上げている。
・管理栄養士養成カリキュラムを通じて健康と福祉に貢献。
・講義やゼミで SDGs に触れている。
・学生の SDGs 活動を支援。
・子どもと食べ残しやトイレの使い方について学習。
・学生サークル顧問、花育活動。

〇研究指導等による参画促進

・研究活動そのものが SDGs と関連。
・研究内容が SDGs と重なっている。
・学生が関連研究テーマに取り組んでいる。
・学生や子どもの健康保持・増進に関わる研究教育。
・定期的な相談活動や連携。

今後、ご自身の教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

（自由記述・抜粋）

〇時間や資金・人的資源などのリソース確保の難しさ

・研究予算

・上記と同じく研究遂行のための予算の不足

・ゼミ見学等における費用支援がない

・研究費の助成や授業準備時間の確保

・じっくり取り組む時間がない

・大学運営業務や研究教育活動に時間を割かれて余裕がない

・新しい取り組みに向き合う時間がない

・時間がない

・時間の不足

・雑務の多さによる時間的余裕の無さ

・相談活動の中断

〇社会実装の機会の不足

・共同研究先の欠如

・大学と附属校園との実践上の連携の不足

〇SDGs 参画に対する適切な社会の評価の不足

・世界的トレンドと合致していないこと

・受容性

・社会的な慣習

・ジェンダー規範など旧体制的な考え

・SDGs に拘ることで教育の自由度が失われる感覚

〇大学の体制

・教育の質に対するトップダウン的体制

・講義やワークショップの許可を得ること

・大学全体としてではなく教員個人に委ねられていること

〇教員自身の SDGs への理解への不安

・教えられるほど SDGs を理解していない

・SDGs の目標が多様で何を求められているか理解が難しい

・SDGs の理解のばらつき

・SDGs を日々意識することが難しい

・自分の専門外は一般論しか教えられない

・特にないが貢献していると自信が持てない

〇SDGs そのものに対する考え
・SDGs の内容があまり知られていないこと
・認知が弱いこと
・基礎概念は重要だが名付けるほどではない

〇専門分野と SDGs との関連性の弱さ
・研究分野が SDGs と関係ない
・直結する講義内容がない
・担当授業が SDGs に直接関係ない
・授業に自然に組み込めていない
・研究分野が直結していないと参画しづらい
・学生教育にあまり関わっていない

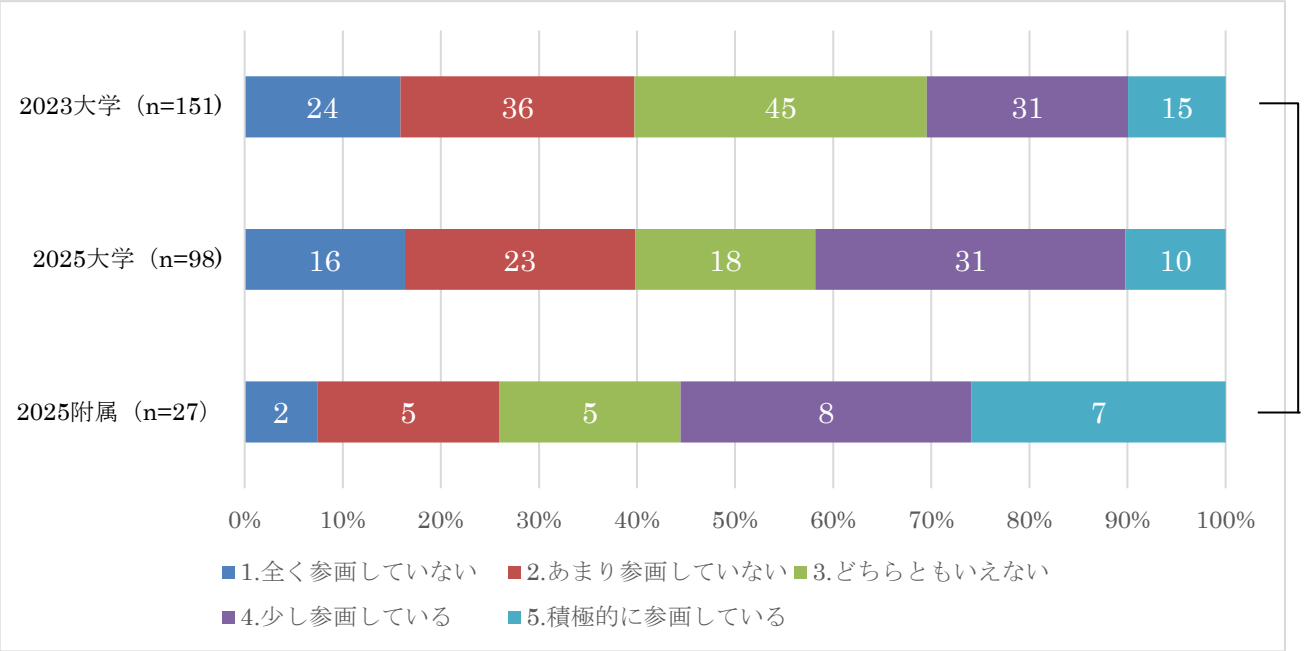
〇学生自身の参画意欲
・寮生の主体性や協力の有無
・若年層が忙しく社会課題に目を向ける時間が少ない
・双方の意識

〇SDGs 参画の位置づけや進め方に関する懸念
・「特別なことをしなければならない」という思い込み
・SDGs に対する批判的立場（欺瞞を含むとの指摘）
・教育と家庭が連携すれば障壁はないとの意見（強制への慎重姿勢）

〇その他
・自分自身のモチベーション

③ 研究・教育以外の業務

職員の方：あなたは現在、ご自身の学内業務を通じて SDGs の達成に参画していますか。
教員の方：あなたは現在、研究・教育以外の活動を通じて SDGs の達成に参画していますか。



p=0.055, Kruskal-Wallis 検定　*p<0.05

研究・教育以外の学内業務・活動を通じて SDGs 達成に参画している者の割合は、大学 41.8%、附属学校園 55.6%であった。大学教職員の研究を通じた SDGs 参画意識は、有意差はみられなかったものの、2023 年度（30.5%）より増加傾向にあった。

ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。（自由記述・抜粋）

〇大学運営・業務改善を通じた SDGs 参画
・業務の DX 化
・会議資料のペーパーレス化
・施設の二酸化炭素排出削減への取組
・中期目標・中期計画管理、世界ランキングエントリー等の間接業務
・研究助成の実施
・研究所支援（間接的参画）
・SDGs 関連研究所の支援

〇専門活動を通じた SDGs 参画
・目標 3「すべての人に健康と福祉を」（診療）
・子どもから高齢者までの健康保持・増進の運動指導
・文京区における生物多様性教育への協力
・植樹準備
・ゴールに関連する業務
・定期的な相談活動や連携

〇学生支援・教育活動を通じた SDGs 参画
・講義
・ジェンダーにとらわれず子どもの気持ちを尊重する教育実践
・教育寮での環境配慮・ジェンダー平等活動への参加
・学生サポート業務を通じた参画
・OCHA-SDGs 学生委員会活動の支援

〇学外連携・社会連携を通じた SDGs 参画
・企業とのイベント企画
・教育寮での SDGs 関連イベント支援
・寮備品の修理・再利用基準の厳格化
・学会経由でプラごみ報告アプリ活用
・環境面・ジェンダー平等に関する情報共有

〇日常生活での SDGs 実践
・節約・分別の徹底
・レジ袋をもらわない
・ボトル to ボトル水平リサイクル
・ごみ分別、エコバッグ利用、節電

・食品ロス削減や無駄な買い物をしない
・日常生活で CO_2 削減・リサイクルを意識
・日頃の生活の中での選択の基本としている
・NGO へのサポート

SDGs への参画意識の属性による比較（n=83~119）

	有効回答数(人)	全体｛平均値（SD）｝	所属｛平均値（SD）｝							*p* 値†	年代との相関§
			文教育 (n=11~13)	理 (n=16)	生活 (n=6)	共創工学 (n=3)	センター・研究所 (n=16~24)	事務系職 (n=7~30)	附属学校園 (n=21~27)		
研究††	83	3.3 (1.3)	3.4 (1.3)	3.0 (1.5)	3.5 (1.4)	3.7 (1.5)	3.8 (1.3)	2.6 (1.1)	3.5 (1.3)	0.40	0.16*
教育††	87	3.5 (1.4)	3.4 (1.4)	2.9 (1.5)	3.7 (1.0)	3.3 (1.2)	3.7 (1.0)	2.4 (1.0)	4.0 (1.2)	0.06	0.10
業務††	119	3.1 (1.3)	2.7 (1.5)	2.7 (1.2)	2.2 (0.4)	3.0 (1.7)	3.7 (1.2)	2.8 (1.2)	3.5 (1.3)	0.02	0.11

*<0.05, **<0.01, ***<0.001　　†一元配置分散分析　　§Pearson の相関係数

Bonferroni 法による多重比較を行ったが、所属による平均値の差はみられなかった（*p*>0.05）。

††選択肢：1.全く参画していない。；2.あまり参画していない。；3.どちらともいえない。　；4.少し参画している。；5.積極的に参画している。
；6.業務に研究/教育は含まれていない。と回答した者を除く。

年代が高いほど、研究を通して SDGs に参画していた。
参画意識の平均値が最も高いのは、センター・研究所（研究）、附属学校園（教育）、センター・研究所（業務）だったが、
所属による SDGs 達成のための参画意識に有意差はみられなかった。

今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。（自由記述・抜粋）

〇時間・資金・人的資源などのリソース不足
・仕事が多すぎて研究に専念できない
・時間／時間の不足／時間が十分に無い
・自由時間の少なさ
・業務で忙しく時間がない（複数）
・興味深い講演会やイベントに参加できない
・前任校より会議・業務が多く学外活動に支障
・やっぱりお金と人が足りない
・時間の不足、スタッフの不足
・経済的な不安定さ
・活動の場へ戻る時間的余裕の無さ

〇業務内容と SDGs との関連性の弱さ
・基本的な物なので、それ以外に特にかかわることがない
・該当する学内業務に携わっていない
・業務に SDGs 達成に関する内容が含まれていない
・業務が SDGs に直接関係ない
・社会活動と SDGs との関連がよく分からない

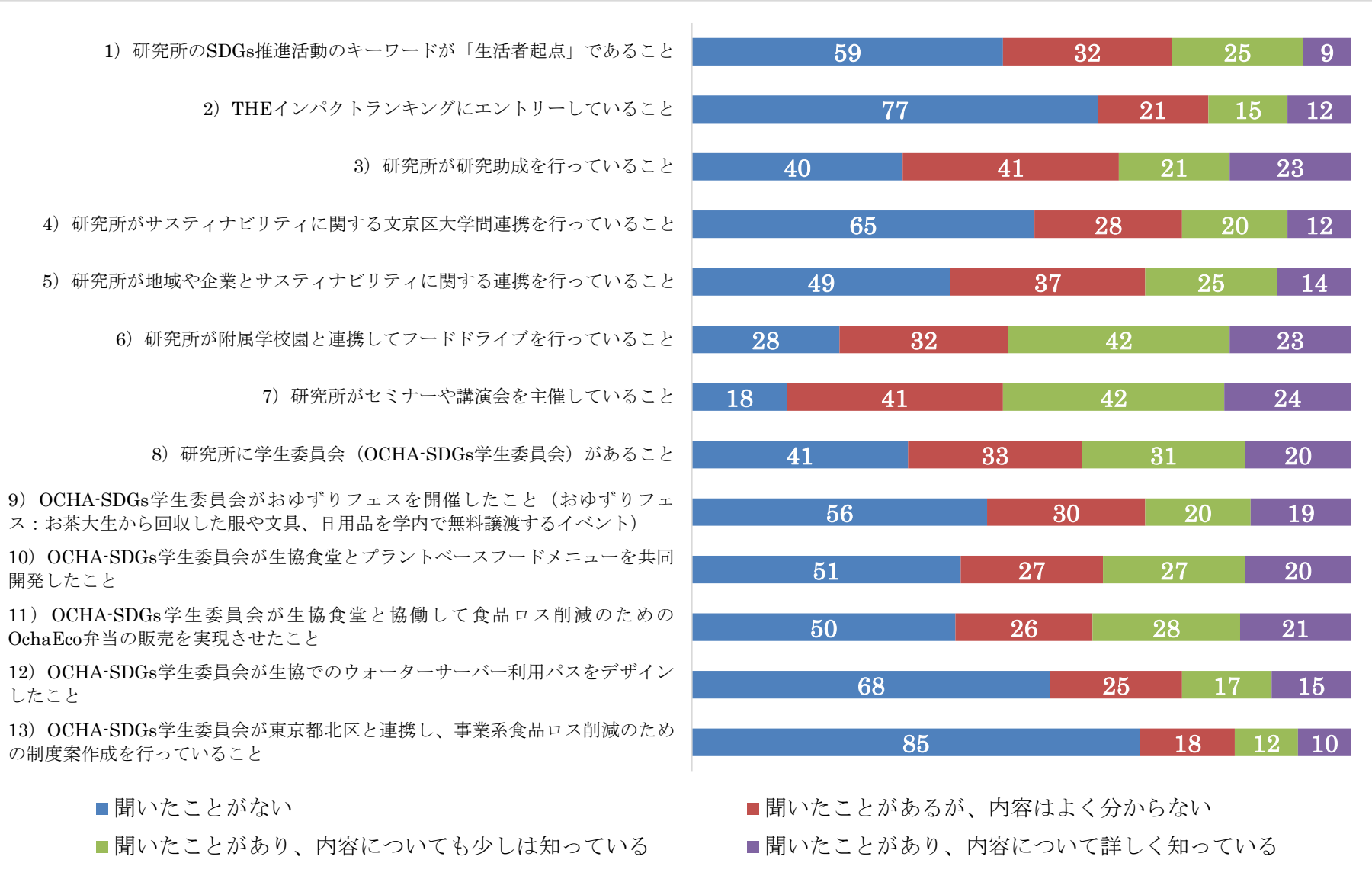
〇大学の方針・制度の不明確さ
・学内方針がない
・学内周知の不足
・参画した場合の報酬のなさ
・協力しても達成感が得られにくい

〇SDGs に関する理解・情報不足
・認知が弱いこと
・そこまで SDGs を理解していない
・SDGs のことが十分にわかっていない
・SDGs 活動を理解し協力する寮生を増やせるか不安

〇社会環境・大学組織文化に関する課題
・地方での生活経験から東京生活が非エコと感じる
・社会的慣習
・SNS 等で社会活動を嘲笑する風潮
・大学の事務手続きやシステムの煩雑さ

（５）SDGs 推進研究所の活動に対する認知度

あなたは、以下の SDGs 推進研究所の活動について知っていますか。（n=125）



調査年度・所属による SDGs 推進研究所の活動に対する認知度※1 の分布（%; n=275）

	大学 2023 (n=150)	大学 2025 (n=98)	附属学校園 (n=27)
1）研究所の SDGs 推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	48.7	55.1	44.4
2）THE インパクトランキングにエントリーしていること	42.0	44.9	14.8
3）研究所が研究助成を行っていること	67.3	71.4	55.6
4）研究所がサスティナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	46.7	50.0	40.7
5）研究所が地域や企業とサスティナビリティに関する連携を行っていること	56.7	64.3	48.1
6）附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	52.0	75.5	85.2
7）研究所がセミナーや講演会を主催していること※2		90.8	66.7
8）研究所に学生委員会（OCHA-SDGs 学生委員会）があること	65.3	75.5	37.0
9）OCHA-SDGs 学生委員会がおゆずりフェスを開催したこと（おゆずりフェス：お茶大生から回収した服や文具、日用品を学内で無料譲渡するイベント）※2		58.2	44.4

10）OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂とプラントベースフードメニューを共同開発したこと※2		63.3	44.4
11）OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂と協働して食品ロス削減のための OchaEco 弁当の販売を実現させたこと※2	56.7	64.3	44.4
12）OCHA-SDGs 学生委員会が生協でのウォーターサーバー利用パスをデザインしたこと※2		50.0	29.6
13）OCHA-SDGs 学生委員会が東京都北区と連携し、事業系食品ロス削減のための制度案作成を行っていること※2		35.7	18.5

※1「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」「聞いたことがあり、内容についても少しは知っている」「聞いたことがあり、内容について詳しく知っている」と回答した者の割合。※2（7）（9）（10）（12）（13）の設問は 2025 年度でのみ行った。

最も認知度の高い年度/所属を緑色で示した。

2023 年度に大学教職員を対象に調査した全ての項目で、2025 年度の認知度が向上していた。
大学では研究所主催セミナー・講演会の、附属学校園ではフードドライブの認知度が高かった。

（６）本学 SDGs 推進活動に対するご意見（抜粋）

本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。

〇SDGs 推進活動に対する肯定的評価

・必要なことだから頑張ってほしい
・今後も活発に続けてほしい
・非常に色々な部分に対して活動を広げていると思う
・フードドライブ、おゆずりフェス、Eco 弁当など多くの取組への感謝
・学生の学びにつながる素晴らしい取組
・学生を積極的に巻き込んでいる点が良い
・大変良いと思う
・人権や環境の取組は足元から始まるもの
・生活者視点の活動は実現可能性が高い
・理想論ではなく地に足のついた活動になっている
・人材養成の点で意義がある

〇活動内容・取組拡充への要望

・留学生向けおゆずりフェスの実施
・おゆずりフェスの受付・引き取り期間の延長
・全ての学生が SDGs を学び議論できる機会の提供
・活動内容の拡充

〇広報・情報発信の強化への要望

・もっと宣伝活動を行うべき
・周知方法の改善（デジタル掲示板など）
・外部への広報強化
・学内メールでの定期的な情報発信

〇大学全体での推進体制への要望

・全学的方針が必要
・研究所活動の学内浸透が弱い
・教育・研究・事務と SDGs の関連付けが弱い
・大学として学術的・批判的研究を進める必要

〇本学 SDGs 活動の認知不足・理解の難しさ

・このアンケートで初めて活動を知った
・研究所の活動を知らなかった
・学生委員会の活動内容がよく分からない
・あまり活発でない印象

〇本学の SDGs 推進の方向性への提言

・幼児教育からの SDGs 教育の意義

・活動成果の将来的検証の必要
・「生活者視点」が都市生活に限定される可能性への懸念

〇本学の SDGs 推進への批判的意見
・SDGs の中心課題（貧困問題など）が十分扱われていないのではないか

【参考資料】1）調査質問票（お茶大生対象）

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力のお願い

・ この調査は、お茶大生の、SDGs に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、本学の SDGs 推進活動や、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

・ 調査への参加は任意です。
・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。
・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。調査終了後の回答の取り下げは、回答時期や回答内容等から取り下げ対象の回答を特定することが難しいため、原則として行いません。調査への参加について気になることがある場合には、回答前に SDGs 推進研究所までご連絡ください。
・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
・ 調査にご協力いただいた方には、OCHA-SDGs オリジナルグッズを差し上げます。調査終了画面をお持ちの上、SDGs 推進研究所事務局（総合研究棟 209）までいらしてください。
・ 調査への回答は、お一人につき一回とさせていただきます。複数回のご回答はご遠慮ください。

●個人情報保護に関して

・ 本調査では、回答者の属性に関する情報収集のため、学籍番号の上 5 桁や年齢等をご回答いただきますが、回答内容から個人を特定することはありません。また、データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。収集したデータ及び結果は責任者が厳重に管理し、研究以外の目的に使うことはありません。

お問い合わせ
SDGs 推進研究所
03-5978-2568（内線 2568）
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なります。
★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1　同意します	2　同意しません

まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

A―1．あなたはお茶大生ですか。

1　はい	2　いいえ

A－2．学籍番号の上 5 桁を教えてください。※下 2 桁は入力しないでください。

A－3．あなたの年齢を教えてください。

歳

A－4．母国語を教えてください。

日本語	日本語以外

A－5．あなたの現在の暮らしについて教えてください。

実家暮らし	一人暮らし	寮暮らし	その他

A－6．現在のあなた自身の経済的な暮らし向きについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

○1.　ゆとりがある
○2.　ややゆとりがある
○3.　どちらともいえない
○4.　あまりゆとりがない
○5.　全くゆとりがない

A－7．あなたの現在の学生生活は充実していますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

1．全く充実していない	2．あまり充実していない	3．まあ充実している	4．とても充実している

A－８．あなたの 2025 年度前期の授業期間中の、1 週間の登校日数は何日ですか。

日

次に、SDGs に対するあなたの知識やお考えについてお伺いします。

B－１．あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

〇1.名前を聞いたことがない。
〇2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
〇3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている。
〇4.上記 3 に加えて、17 のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
〇5.上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

B－２．あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

〇1.全く関心がない。
〇2.ほとんど関心がない。
〇3.あまり関心がない。
〇4.少し関心がある。
〇5.まあ関心がある。
〇6.非常に関心がある。

B－３．あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。（複数選択可）

□1. 学校の授業（高校以前）
□2. 学校の授業（お茶大）
□3. 学校の授業（他大学）
□4. ボランティア活動の経験
□5. 海外での経験（居住、留学、課外活動など）
□6. アルバイトの経験
□7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
□8. SNS（知人やインフルエンサー）
□9. 家族や友人との会話
□10. その他（具体的に：　　）

B－４．あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

	全く知らない	ほとんど知らない	あまり知らない	少し知っている	だいたい知っている	非常によく知っている
1.　目標 1 貧困をなくそう	1	2	3	4	5	6
2.　目標 2 飢餓をゼロに	1	2	3	4	5	6
3.　目標 3 すべての人に健康と福祉を	1	2	3	4	5	6
4.　目標 4 質の高い教育をみんなに	1	2	3	4	5	6
5.　目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	1	2	3	4	5	6
6.　目標 6 安全な水とトイレを世界中に	1	2	3	4	5	6
7.　目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1	2	3	4	5	6
8.　目標 8 働きがいも経済成長も	1	2	3	4	5	6
9.　目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を	1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう	1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう	1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に	1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう	1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

B－５．あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

	全く関心がない	ほとんど関心がない	あまり関心がない	少し関心がある	まあまあ関心がある	非常に関心がある
1.　目標 1 貧困をなくそう	1	2	3	4	5	6

2.　目標 2 飢餓をゼロに	1	2	3	4	5	6
3.　目標 3 すべての人に健康と福祉を	1	2	3	4	5	6
4.　目標 4 質の高い教育をみんなに	1	2	3	4	5	6
5.　目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	1	2	3	4	5	6
6.　目標 6 安全な水とトイレを世界中に	1	2	3	4	5	6
7.　目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1	2	3	4	5	6
8.　目標 8 働きがいも経済成長も	1	2	3	4	5	6
9.　目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	1	2	3	4	5	6

13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を	1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう	1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう	1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に	1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう	1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に関心がある」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

B－６．あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

	全く影響しない	ほとんど影響しない	あまり影響しない	少し影響する	まあまあ影響する	非常に強く影響する
1.　目標 1 貧困をなくそう	1	2	3	4	5	6
2.　目標 2 飢餓をゼロに	1	2	3	4	5	6
3.　目標 3 すべての人に健康と福祉を	1	2	3	4	5	6

4.　目標 4 質の高い教育をみんなに	1	2	3	4	5	6
5.　目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	1	2	3	4	5	6
6.　目標 6 安全な水とトイレを世界中に	1	2	3	4	5	6
7.　目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1	2	3	4	5	6
8.　目標 8 働きがいも経済成長も	1	2	3	4	5	6
9.　目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を	1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう	1	2	3	4	5	6

15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう	1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に	1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう	1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に強く影響する」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの**参画意識**や行動についてお伺いします。

C－１．次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	全く当てはまらない	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	少し当てはまる	まあまあ当てはまる	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

C－２．あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去１か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月１回未満	月1～3回	週1～3回	週4～6回	毎日１回	毎日２回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 （FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。）	1	2	3	4	5	6

	全く行っていない	ほとんど行っていない	あまり行っていない	少し行っている	まあまあ行っている	いつも行っている
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。（自家用車やタクシーを使わない）	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

C－３．あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

C－４．あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去１か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月１回未満	月1～3回	週1～3回	週4～6回	毎日１回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。 （例:国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等）。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 ｛例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）｝	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 （賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること）	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 外食する。	1	2	3	4	5	6
7. 中食する。 （中食：家庭外で調理された弁当や惣菜などを自宅や職場・大学で食べること）	1	2	3	4	5	6

8. 家庭で調理されたものを食べる。 （家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。）	1	2	3	4	5	6
9. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
10. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
11. 代替肉を食べる。（例：大豆ミート、昆虫等）	1	2	3	4	5	6
12. 本来食べられる食品を廃棄する。 （例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す）	1	2	3	4	5	6

C－５．あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

○1. ほとんど食べない
○2. 週に 4~5 日食べない
○3. 週に 2~3 日食べない
○4. ほとんど毎日食べる

C－６．あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1～3 回実施したことがある	4～9 回実施したことがある	10 回以上実施したことがある
1. 授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。 （例：ゴミ拾い活動）	1	2	3	4
2. 学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 （例：教育、紛争、災害、福祉など）	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。（国内/海外問わず） （例：ランドセル等）	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集（新聞やニュースから）。	1	2	3	4

10. SDGs に関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「10 回以上実施したことがある」を選択してください。	1	2	3	4
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。（例：避難訓練）	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

C－７．あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

（例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等）

〇1. 全くしていない
〇2. ほとんどしていない
〇3. あまりしていない
〇4. 少ししている
〇5. たまにしている
〇6. いつもしている

D－１．あなたは、お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所の方針や活動に関する以下のキーワードについて知っていますか。もっとも当てはまるもの一つをそれぞれ選択してください。

	聞いたことがない	聞いたことはあるが、内容はよく分からない	聞いたことがあり、内容についても少しは知っている	聞いたことがあり、内容について詳しく知っている
1）研究所の SDGs 推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	1	2	3	4
2）THE インパクトランキングにエントリーしていること	1	2	3	4
3）研究所が附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	1	2	3	4
4）研究所が学内の教員に対し SDGs 研究助成を行っていること	1	2	3	4
5）研究所に学生委員会（OCHA-SDGs 学生委員会）があること	1	2	3	4
6）OCHA-SDGs 学生委員会がおゆずりフェスを開催したこと	1	2	3	4
7）OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂とプラントベースフードメニューを共同開発したこと	1	2	3	4

8）OCHA-SDGs 学生委員会が生協食堂と協働して食品ロス削減のための OchaEco 弁当の販売を実現させたこと	1	2	3	4
9）OCHA-SDGs 学生委員会が生協でのウォーターサーバー利用パスをデザインしたこと	1	2	3	4
10）研究所がサスティナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	1	2	3	4
11）研究所が地域や企業とサスティナビリティに関する連携を行っていること	1	2	3	4

E－１．あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

F. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに（つまり、どの選択肢もクリックせずに）、次のページに進んでください。

□ 1. そう思う
□ 2. どちらかといえばそう思う
□ 3. どちらともいえない
□ 4. どちらかといえばそう思わない
□ 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

調査にご協力いただいた方に、謝品（OCHA-SDGs 学生委員会オリジナルグッズ）をお渡ししております。
この画面をご用意の上、SDGs 推進研究所（総合研究棟 209）までお受け取りにいらして下さい。
開室時間：平日 9：30～16：30（業務の都合等により不在の時間帯あり。余裕を持ってお越しください。）
受け渡し期間：2025 年 9 月末日

【参考資料】2）調査質問票（教職員対象）

＜調査説明画面＞

令和7年度SDGs認知度調査（教職員対象）

調査の目的と協力のお願い

- この調査は、教職員の皆様の、SDGs※に関するお考えを伺い、本学でSDGsをより強力に推進するための方法を検討することを目的としております。
- 調査の結果は、本学のSDGs推進活動・広報活動における基礎資料として活用されます。
- 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。
- ※SDGsとは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

調査協力に関して

- 本調査は、皆様の自由意思を尊重しています。調査目的等をご理解いただいた上で、ご協力ください。
- 調査への回答の所要時間は、10分程度です。
- 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、一切の不利益を被ることはありません。
- 調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。本調査の回答を取り下げる際には、2025年12月末日までに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

個人情報保護に関して

- データは調査固有のID番号で管理し、研究所HP等に公表する際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。
- 結果は責任者が厳重に管理し、本学及びSDGs推進研究所の業務以外の目的に使われることはありません。

回答期限　2025年12月31日（水）

〈調査責任者〉 SDGs推進研究所長 斎藤悦子

〈調査に関するお問い合わせ〉 SDGs推進研究所事務局 sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

＜SDGs認知度に関する質問＞

* 必須

はじめに、SDGsに対するあなたの知識やお考え、参画意識についてお伺いします。

1. あなたは、SDGsについて知っていますか。次のうち、最も当てはまるもの一つを選択してください。 *

- ◯ 1. SDGsについて聞いたことがない
- ◯ 2. SDGsについて聞いたことはあるが、内容はよくわからない
- ◯ 3. SDGsについて聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている
- ◯ 4. 上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている
- ◯ 5. 上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている

2. あなたは、SDGsにどの程度関心がありますか。最も当てはまるもの一つを選択してください。 *

- ◯ 1. 全く関心がない
- ◯ 2. ほとんど関心がない
- ◯ 3. どちらかといえば関心がない
- ◯ 4. どちらかといえば関心がある
- ◯ 5. やや関心がある
- ◯ 6. 非常に関心がある

＜参画意識に関する質問－研究＞赤字は補足説明

3. あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGsの達成に参画していますか。最も当てはまるもの一つを選択してください。業務に研究が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。 *

- ○ 1. 全く参画していない
- ○ 2. あまり参画していない
- ○ 3. どちらともいえない

1or2or3を選択→質問4は非表示、質問5のみ回答

- ◉ 4. 少し参画している
- ○ 5. 積極的に参画している

4or5を選択→質問4・5とも表示

- ○ 6. 自分の業務に研究は含まれていない

6を選択→質問4・5とも非表示、質問6へジャンプ

4. 研究を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください

質問3で4or5を選択した場合に表示

5. 今後、ご自身の研究を通じてSDGsの達成に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください

質問3で1～5を選択した場合に表示

＜参画意識に関する質問－教育＞ 赤字は補足説明

6. あなたは現在、本学学生や子ども・児童・生徒への教育を通じて、SDGsの達成に参画していますか。最も当てはまるもの一つを選択してください。業務に教育が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。 *

- ○ 1. 全く参画していない
- ○ 2. あまり参画していない
- ○ 3. どちらともいえない

1or2or3を選択→質問7は非表示、質問8のみ回答

- ◉ 4. 少し参画している
- ○ 5. 積極的に参画している

4or5を選択→質問7・8とも表示

- ○ 6. 自分の業務に教育は含まれていない

6を選択→質問7・8とも非表示、質問9へジャンプ

7. 本学学生や子ども・児童・生徒への教育を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。 *

回答を入力してください

質問6で4or5を選択した場合に表示

8. 今後、本学学生や子ども・児童・生徒への教育を通じてSDGsの達成に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。 *

回答を入力してください

質問6で1～5を選択した場合に表示

＜参画意識に関する質問－その他の業務＞ 赤字は補足説明

9.

- **職員の方：**あなたは現在、ご自身の学内業務を通じて、SDGsの達成に参画していますか。
- **教員の方：**あなたは現在、研究・教育以外の活動を通じて、SDGsの達成に参画していますか。

最も当てはまるもの一つを選択してください。 *

- ○ 1. 全く参画していない
- ○ 2. あまり参画していない
- ○ 3. どちらともいえない

1or2or3を選択→質問10は非表示、質問11のみ回答

- ◉ 4. 少し参画している
- ○ 5. 積極的に参画している

4or5を選択→質問10・11とも表示

10.

- **職員の方：**学内業務を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。
- **教員の方：**研究・教育以外の活動を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください　**質問9で4or5を選択した場合に表示**

11. 今後、学内業務（職員の方）や研究・教育以外の活動（教員の方）でSDGsの達成に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください　**質問9で1～5を選択した場合に表示**

＜本研究所の活動に関する質問＞

12. あなたは、以下のSDGs推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。最も当てはまるもの一つをそれぞれ選択してください。 *

	聞いたことがない	聞いたことはあるが、内容はよく分からない	聞いたことがあり、内容についても少しは知っている	聞いたことがあり、内容について詳しく知っている
1）研究所のSDGs推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	○	○	○	○
2）THEインパクトランキングにエントリーしていること	○	○	○	○
3）研究所が研究助成を行っていること	○	○	○	○
4）研究所がサスティナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	○	○	○	○
5）研究所が地域や企業とサスティナビリティに関する連携を行っていること	○	○	○	○
6）研究所が附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	○	○	○	○
7）研究所がセミナーや講演会を主催していること	○	○	○	○
8）研究所に学生委員会（OCHA-SDGs学生委員会）があること	○	○	○	○
9）OCHA-SDGs学生委員会がおゆずりフェスを開催したこと（おゆずりフェス：お茶大生から回収した服や文具、日用品を学内で無料譲渡するイベント）	○	○	○	○
10）OCHA-SDGs学生委員会が生協食堂とプラントベースフードメニューを共同開発したこと	○	○	○	○
11）OCHA-SDGs学生委員会が生協食堂と協働して食品ロス削減のためのOchaEco弁当の販売を実現させたこと	○	○	○	○
12）OCHA-SDGs学生委員会が生協でのウォーターサーバー利用パスをデザインしたこと	○	○	○	○
13）OCHA-SDGs学生委員会が東京都北区と連携し、事業系食品ロス削減のための制度案作成を行っていること	○	○	○	○

13. 本学のSDGs推進活動に対するご意見をお聞かせください。

回答を入力してください

14. 性別を教えてください。

- ◯ 男性
- ◯ 女性
- ◯ その他

15. 年齢を教えてください。

- ◯ 18-29歳
- ◯ 30-39歳
- ◯ 40-49歳
- ◯ 50-59歳
- ◯ 60歳以上

16. あなたの主なご所属先を教えてください。

- ◯ 文教育学部
- ◯ 理学部
- ◯ 生活科学部
- ◯ 共創工学部
- ◯ センター・研究所
- ◯ 事務系職
- ◯ 附属学校園
- ◯ その他

17. 附属学校園に所属されている方は、さらにご所属をご回答ください。

質問16で附属学校園を選択した場合に表示

- ◯ いずみナーサリー
- ◯ こども園
- ◯ 幼稚園
- ◯ 小学校
- ◯ 中学校
- ◯ 高等学校
- ◯ その他

お茶の水女子大学　SDGs 推進研究所
2025 年度　SDGs 認知度調査　結果のまとめ

2026 年 3 月
発行：お茶の水女子大学 サスティナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610
東京都文京区大塚 2-1-1
Tel：03-5978-2568
Fax: 03-5978-5766
E-mail：sdgs-office@cc.ocha.ac.jp